

(2)

0017

RA'-0009

0018

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

A/1.0.0.2-3

京發第六號

昭和二十年九月十日

終戦連絡中央事務局第一部御中

終戦連絡事務京都委員会

總務班庶務

係長
菅本隆志

事務報告ニ關スル件

去ル九月六日夕刻當地到着直千ニ京都ホテルニ宿舍ヲ定メ諸般ノ準備ニ取りカハリタルガ今日迄ノ経過並ニ事務報告左ノ通り申進ス

一 到着直後業務開始ニ先立チ先ツ委員会ノ組織ト事務分担ヲ明確ナラシムコト肝要ト存ゼラレタルヲ以テ委員会機構内規急據作製翌七日午后二時開催ノ委員会ニ之ヲ提示シ大体ノ成案ヲ得タリ(別添第一號参照)尚取敢ヘズ外務省出張員ノ事務分担ヲ別添第二號通り取り決メタリ

ニ七日午後二時ヨリ中村委員長 隨員 中央ヨリノ派遣官並ニ京都府知事 三好重夫 其他當地方官民代表出席ノ上米軍進駐ニ関スル諸情勢報ノ交換並ニ本委員会ノ使命等ニ関シ説明研究スルトコトアリタリ(別添第三號参照)

八日 委員長以下関係官ハ京都府廳當局官ノ案内ニヨリ京都府側トシテ米軍ノ宿舍ニ予定シタル岡崎公会堂、他数ヶ所ノ檢分ヲ行ヒタルガ何レモ一ニノ設備未完了ナル点ヲ除キ米軍受入ノ用意整ヘオルヲ認メタリ

九日 中村委員長ハ成田第一部長ヨリノ通報ニ基キ「ヘインライン」エリイ兩大佐ノ出迎ヘノタメ吉岡官補其他ヲ従ヘ市外大久保飛行場ニ赴キ京都ホテルニ案内シ會談、午台大阪ヘ赴キ夕刻帰京セリ

B4

0018

RA'-0009

0019

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

京都府委員會議規程

昭和四年十二月六日告示第六六六號

昭和六年十月三十日告示第七九四號改正

昭和十二年十二月十五日告示第七三九號改正

昭和十四年十月十二日告示第六九一號改正

昭和十六年十二月九日告示第一二六九號改正

第一條 府ノ重要ナル事務ヲ辦理スル爲左ノ委員ヲ置ク

警務委員	七名
土木委員	七名
教育委員	七名
産業委員	七名
財務委員	五名

府會議長及府會議副議長ハ各委員會ニ出席シ採決ノ數ニ加ハルコトヲ得

第二條 委員ハ府會議員中ヨリ議長ノ推薦ニ依リ知事之ヲ囑託ス

第三條 委員ノ任期ハ二年トス

第四條 各委員會ノ分擔事項ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 各委員會ニ委員長及副委員長各一名ヲ置キ委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 委員會ハ知事之ヲ招集ス委員長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ招集ヲ知事ニ請求スルコトヲ得

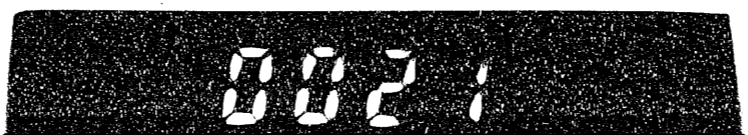
第七條 委員會ニ要スル經費ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

京都府委員會議規程第四條ノ分擔事項

(昭和五年五月一日廳達第六號)

- 一 警務委員會 警務、保安、衛生、建築、工場其ノ他警察ニ關スル事項
- 二 土木委員會 土木及管轄ニ關スル事項
- 三 教育委員會 教育、社寺、兵學及社會學ニ關スル事項
- 四 産業委員會 農林、蠶糸、商工、水産其ノ他産業ニ關スル事項
- 五 財務委員會 財務及會計ニ關スル事項

0020



平均	計	城 實	木 農	福 女	京 二 女	宮 中	桃 中	校 名	消耗品費			實習材料費			通信一般費(一校當)		
									府費	習費	其他	府費	習費	其他	府費	報費	其他
五二五〇	三二五	五四	六三	四四	四五	五三	五五		府費	習費	其他	府費	習費	其他	府費	報費	其他
三四八	二〇九	五	五八	六六	四四	一五	二一										
二六六	一六〇	五七	五	一六	三四	一五	四三										
一一四	六八四	一六	一六	一三	一三	八三	一九										
四七六	二八六	六八	八二	一九	一九	四八	五〇		府費	習費	其他	府費	習費	其他	府費	報費	其他
一六八	一〇一		二五	七二		四											
四六三	二七八	二二		八五	四八	一五	八										
二〇八	六六五	九〇	一〇七	二七六	六七	六七	五八										
二〇八	二四八	二〇七	二七一	二二二	二二二	一一一	二一五		府費	報費	其他	府費	報費	其他	府費	報費	其他
二六二	九六七	二八	一四四	二六五	一五七	八〇	二九三										
二六五	一五九				九六		六三										
三九五	三三七	二三五	四一五	四八七	四七五	一九一	五七一										

昭和十七年度府立中等學校校費實際支出額調(學級當)

計	水 産	峰 山 工	綾 部 工	向 陽 工
一七	二	三	二	二
六				
二四	二	三	二	二
一				
	港 一			
	漢 一	一六	一〇	一〇

0021

RA'-0009

0022

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

トス
ニ本委員會、担任區域ハ米津大區運駐ニ伴ヒ設置セラルモ、キルニ特別ニ
規定セラル、場合ヲ除キ一應其管轄範圍全域ニ及ブモノトス
三米津運駐情勢ニ應ジ委員會指定委員ヲ依テ、地域ニ特派シ關係
軍官民方面ト連絡スルモノトス

0022-1

1500

RA'-0009

0023

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

第三號

終戰連絡事務京都委員會第一次會同記録

(概略)

九月七日午後二時十分ヨリ京都府廳ニ於テ中村公使司會ノ
 下ニ第一次委員會ヲ開催セリ。席上中村公使ハ東京
 進駐セル米國第八軍ノ態度、要求徵發、動行ニ就イテ
 述ヘ當地ニ近日進駐ヲ開始スベキ米第六軍ヲ迎フルニ就イ
 テ本委員會ノ任務、心構ヲ説キ本委員會構成内規ニ
 就キ採文ヲ説明シ後質疑應答ニ入リ。
 其ノ概略次、如シ
 京都市長 當地ニ進駐スベキ米第六軍ハ東京進駐ノ
 第八軍ト何等カ動向、態度ニ違ワズ懸ハナキヤ
 中村公使 敵軍ノ對日態度、頗ル事務的ニシテ日本側ニ誠意
 ヲ以テ迎ヘル限リ特別考慮スベキ必要ハナイト存ジ

(國定規格 B5 12×17.5 厘米)

0022-2

ス

十龍事務官

日本側ハ平常心ヲ以テ迎ヘテ居ルニモ相ラズ米軍ハ戰時
 心ヲ進駐セル末ルヲ以テソノ間多クノ局部的ノ摩擦ノ
 發生ハ免レサルモニシテ米第六軍ハ比島、米第一線部
 隊ナルヲ以テ特別考慮ヲ拂フ必要アルヤモ知レズ
 中村公使 司令官ノ意嚮ハ至極協調的ナルモ米軍ノ末端マテ
 ハ徹底シ業スルニシテ小軋轢ハ免レサルナリ
 京都經濟第三部長 第六軍ノ兵員、數ハトナリヤ、物品、徵發ノ模
 様ハトウカ
 中村公使 要求ハ總ヘテ事前電報ニテ知ラシテ居ル様ニ東京

(國定規格 B5 12×17.5 厘米)

0023

大日本帝國政府

子

例ニ徴シ承知致シテ居ルコトス
 京都府第二經濟部長
 米軍ニ要求ヲ向カ言フ事来ル以前ニ折衝上輕減ヲ
 シテモラフ譯ニハユカヌカ
 中村公使
 折衝ニヨリ輕減ヲ圖ルルガ然テアルカ日本側ニテモ唯
 無イトウニモナラン一懸張リテナラ可及的誠意ノ
 アルトコロヲ示シ後ハ勘辨シテモラフ方ガ得策ニヤチ
 ナセガリ
 京都府警務部長
 進駐軍消息情報不明ノ為當方對策一階中
 模範的ニ頷ル固却ニ居ケリ依テ今後ハ機會アリ
 ル毎ニ情報ノ提供ヲ不願ニ致シマス
 中村公使

(國定規格 B5 125 × 175mm)

0024

大日本帝國政府

子

向ヲカトウ出ルカ令所サワバリ分リコセンノ東京ニ場
 合ヲ參考ニシテ御準備ヲ進メラレテハ如何デスカ
 京都府經濟第一部長
 食料ニ甚名嗜ム如ク進駐軍ノ管理下ニ置カレル
 在望ニアリマセシカ
 水瀧善子官
 カル心配ニ蒙テ例ニ鑑ミ不必要ナリ
 京都府經濟第一部長
 持参食料ハ先遣隊ニ持参スルモノナリヤ後續金
 軍ニ然ラヌカ
 老岡事務官
 持参食料ハ先遣隊一五〇名ヲケル日本側ニ給與セルモ
 後ニ持参食料ニテ賄ヘリ
 外以テ委員會構成ヲ中心ニテ質疑應答ヲ重ネタリ

(國定規格 B5 125 × 175mm)

0025

RA'-0009

0025

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

中村公使
終戰連絡事務京都委員會ト致シマセウカ
舞鶴市長
大阪終戰連絡委員會ト京都ト關係ハ如何ナルカ
此問題ニ就テ滋潑ナル意見ト交換アリテ結局大阪ハ
京都ノアラシクトイフ事ニ諒解ヲ遂ケタ
以上ノ第一次會同ノ概略ニシテ一同茶ヲ喫シツ、四時過
散開セリ

以上

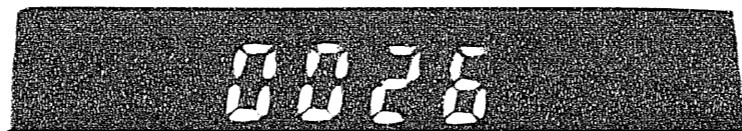
(國定規格B5二六×三六)

0027

5
中村公使
本委員會ニ對スル總監府ト軍トノ關係如何ニスルヤ
總監府ヨリ各府縣軍ニ連絡手定、各々專任連絡員
ヲ本委員會ニ送り込ム方宜敷カラシ
中村軍代表
軍トシテハ復員ハ略ニ完了、為メ軍ヨリノ復員働ハ大ニテ
期待ハ掛ケラレズ、右御諒承ヲ願ヒ度シ
中村軍
第六軍管轄區域ハ如何
中村公使
大略箱根以西ニシテ米軍ハ詳細ノ地圖ヲ提出ス
中村軍代表
委員會ハ正式ニ何ヲ呼稱スルカ

(國定規格B5二六×三六)

0026



(第二號 昭和二十年九月二十四日)

九月二十二日ニ於ケル連絡事項其他

一終戦連絡中央事務局一般連絡事項

「〇、〇、第三部長トクレイマー大佐

トノ會談報告(二十二日)

イ、聯合軍司令部ヨリ近ク發布豫定ノ經濟

關係 指令ノ基本の方針ニ付〇、〇

第三部長ニ於テ非公式ニ留シタル處ク

レイマー大佐ノ草案ヲ左ノ通内示スル處

アリタリ本件内容ハ未決定ノモノナルニ

付關係者ノミノ諒知ニ止ムルモノトス

ロ、問 軍需工場ノ轉換方針如何

答 生活必需物資ノ生産ヲ確保スル爲

A/C 002-3

後共配給統制ハ必要デアリ自由ナル商業
機構ノ復活ハ論外デア

要スルニ日本政府ハ物資ノ公平ナル分配

ヲ確保スル爲必要ナル万般ノ物價並ニ配

給政策ヲ早急ニ實施ス可ク且其ノ措置ハ

事前ニ聯合軍側ノ許可ヲ受ケネバナラヌ

ニ、問 金融統制ハ如何

答 金融ノ統制ハ生活必需品生産重點

主義ノ趣旨ニ依リ實施セネバナラヌガ詳

細ハ目下研究中デア

ホ、右諸方針ニ付テハ週クトモ來週(今週

ニ該當ス)一杯ニハ 指令ヲ日本政府

ニ手交スルコトトナルデアラウ

「内閣調査局ヨリノ連絡」

戰時中「特定ノモノ」ヲ生産シアリタル

以外ノ軍需工場ノ民需ヘノ轉換ハ何等ノ

手續ヲ要セズニ認ムルコトトスル

「特定ノモノ」トハ兵器、彈藥、軍艦及

航空機ヲ指シ前三者ノ工場及航空機關係

(除原料)ノ凡テノ工場、事業場ノ轉換

ハ個別的ニ聯合軍司令部ノ許可ヲ要スル

右方針ハ相當日本側ニ有利ニ考ヘタモノ

デア

ハ、問 諸物資ノ現配給機構ニ付テハ如何

ニ考フルカ

答 現在ノ日本ノ價格制度並ニ配給機構

ハ完全ニ失敗シテ居ル之ガ抜本的改革ハ

不可避デア

1、聯合軍司令部ノ經濟一般命令ノ事前連

絡ニ對處シ日本側ノ意、意見ヲ聯合軍

側方針ニ則リ早急ニ取纏ノ要アリ依而別

紙「經濟運籌基本方針ニ關スル件」ニ基

キ各省ノ資料提出ヲ求ム

2、右資料作成ニ當リ輸出入物資ニ付テハ

輸、仕向地、仕入地、所要船腹ノ外「最

近ノ相場ニ基キ計算シタル金額」ヲ揭上

スルヲ要ス

「指令第三號發布」翻譯ノ上各局ニ配布

ス

三、商工省關係連絡事項

連絡事項無シ

三、一般情報

1、新京大使館富田書記ノ鮮滿情報（九月二十二日現地ヨリ歸京）

イ) 北鮮狀況

滿洲ヨリ避難セル邦人ハ三八度以北ニ當初約七万人アリシモ其ノ後増即中ニシテ 朝ニ向ヒ衣、食、住ノ困難ヲ極ムト豫想サレ且蘇聯軍及鮮人ニ依ル京、暴行最モ甚シ赤 軍ハ進駐ト同時ニ邦人ノ時計、万年筆ヲ奪ヒ甚シキハ將校服ヲ奪ヒテ之ヲ着用シ居レルモノアリ

ロ) 南鮮狀況

米軍進駐下ニ概ネ内地同様ノ治安ヲ保テリ但シ鮮 不逞分子ノ暗躍アリ

殆ト無事状態ナリ、滿鐵社員及家族ニ對シテハ生命、財産ノ保障アリテ歸國シタルモノ相當アリ
2、海軍省連絡ニ依レバ艦船ノ修復狀況左ノ如シ

イ、船 舶

九月十日現在要修理船 三〇

九隻 六〇九、五〇〇（總噸）

九月二十日現在修理完了船 一

〇三隻 一八三、九八七（總噸）

ロ、艦 艇

九九隻ノ復員使用艦艇中既ニ九七

隻ハ準備完了セリ

四 項

朝鮮米穀會社ノ倉庫ハ燃打ヲ受ケツ

ツアリ又「光」列車乗客全員京城ニ

於テ擔致セラレタル事例モアリ 釜

山ハ食糧窮乏シ兵站武装解除後ハ食

糧治安ハ全ク不能トナル可シ

警察ハ鮮系ニ引繼ガレ動遙ノ色アリ

邦人某署長ハ自動車ヲ九万圓ニテ買

却シ逃モセル事例アリ

イ) 滿洲狀況

奉天ニ於テハ蘇聯軍ハ毎日ノ如ク邦

人家屋ニ侵入掠奪、殺人ヲ行ヒツツ

アリ奥地開拓民ハ殆ト避難ノ余祐ナ

ク擔致セラレタルモノ自決シタルモ

ノ多カル可ク北鮮ニ入り來レルモノ

在沖繩邦人官吏ニ付安否確認希望ノ向ハ氏各年令官名ヲ總務局内終戦連絡部ニ二十五日午前中迄ニ連絡セラレ度シ



人事
陸軍一部
吉内一博長

A.Y. 00. 2-3

昭和
二十二年

一一二七八 平

神戸 九月二十五日
本省 二十五日
大阪 連

吉田外務大臣

大阪總督府小淵參事官

(連絡官派遣方ニ關スル件)

一 軍國司令部ハ十五日ヨリ大阪ニ設置セラルルコトニ決定シ大阪
神戸方面ノ事務欄邊ニ船ルニ付奈良ニ陳定セラレタリタル連絡官
ヲ至急大阪ニ派遣スル機調配請フ(了)

外務省

0030

RA'-0009

0029

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

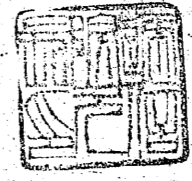
終戦第三部
吉内淳夫

通信部長官

昭和二十年九月二十九日

通信部長

外務次官殿



0031

A11.0.0.2-3

終戦第三部 通信部長官

右に記シテハ、奉ニ御照會申置候處、官製ノ希望ヲ勘察シ其ノ施設ナ一
部變更左記ニ依リ實施ノニト相成候條可然、知相成候

一、本専用通信網ハ各中央官廳ト地方廳友出先機關トノ間若クハ地方廳友
出先機關相互間ニ於テ專ラ終戦事務連絡ノ用ニ従スルモノトス

二、本件ハ差向テ東京ヲ中心トスル専用通信網ヲ實施シ、特ニ東京ヲ中心トス

三、東京局ニ於ケル専用線設備及其ノ回線數ハ次ノ如トシ之ヲ時勢交換言
ニ改容専用取扱ナシモノトス

新	廣	博	館	京	吳
地	瀨	木	山	寶	都
回	回	回	回	回	回
線	線	線	線	線	線
數	五	一	一	一	一
對	佐	仙	新	青	札
地	世	台	潟	森	
回	回	回	回	回	回
線	線	線	線	線	線
數	一	一	一	一	一

四、本施設ニ依リ、通話シ得ル區域ハ前項専用通信網施設對地相互間トス
五、東京局ニ於ケル記録申込ハ特ニ「二〇八」一局ヲナシ、三波字（ニ
波）ニモトシ、其ノ他ノ局ニ在リテハ一波市外電話申込ト同様ナルモ、

記録簿

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0009

0030

ニ終 鐵道絡通話ナル旨ヲ申出ラレタキコト
本施設利用者ハ可及的市外通話用市内専用電話ヲ設備スルヲ原則トス
ルモ特ニ利用幾致僅少ナルモノハ特定ノ加入電話ニ限ルモ支ナキモノ
トス

0032

RA'-0009

0031

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

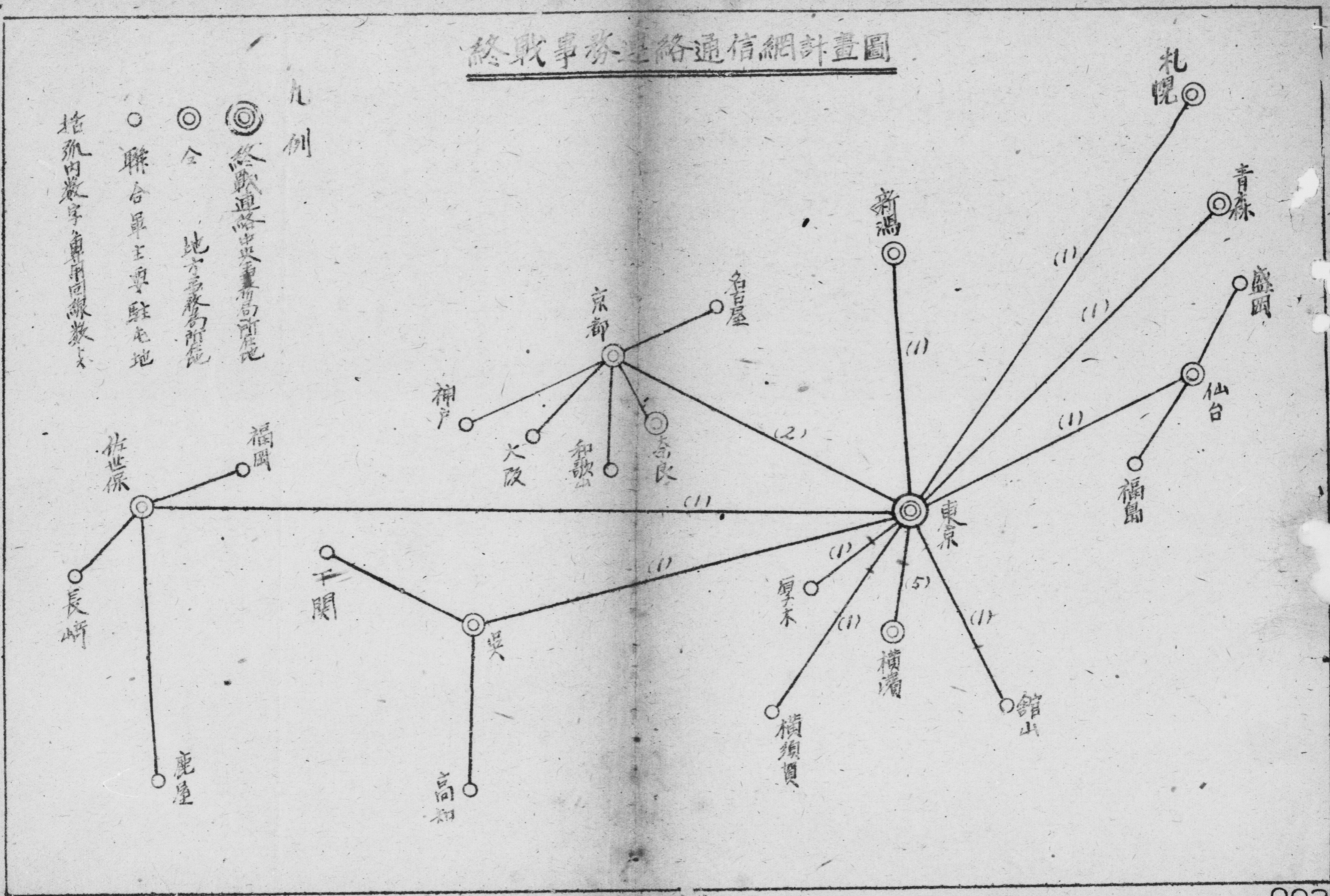
国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

終戰事務連絡通信網計畫圖

凡例

- ◎ 終戰連絡中央重市町所屬
- 聯合軍主要駐屯地
- 地方支隊司令部
- 指定内數字表示回線數



0033

RA'-0009

0032

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

總長

昭和二十年十月一日

寫

長崎縣知事 永野若松

外務大臣殿

内務大臣殿

九州地方總監殿

要係

長崎地區ニ於テ聯合軍トノ連絡ニ関スル件

A'1.0.2-3

長崎縣ニ對スル聯合軍ノ進駐状況等ニ関シテハ隨時御報告致
置候通りニテ聯合軍ハ大村地區ニ九月二十日ヨリ、佐世保地區ニ九
月二十二日ヨリ、長崎地區ニ九月二十三ヨリ進駐ヲ開始シ十月一日
現在ニ於テ佐世保市及其附近ニ約三カ四千名、大村市ニ約千
名、長崎市及其附近ニ約一カ二千三百名、諫早市約七千

五百名ノ進駐ヲ了シ其間些少ノ事故發生ヲ見タルニ概ネ
川滑ニ推移シ來リ發生シタル事故ニ對シテ先方ニ於テ既ニ處
置ヲ了シタル状況ニ有之候而シテ此等聯合軍ト日本側トノ
連絡ニ関シテハ九月十三日佐世保ニ連絡委員會ノ正式設置ア
リ佐世保市及大村市方面ニ進駐スル聯合軍トノ連絡折衝ニ當
ルコト、為リタルガ長崎市及諫早市方面ニ進駐セル聯合軍トハ
先方部隊ノ系統及兵員數等ニ我々ニ於ケル佐世保鎮守府及
長崎縣廳ノ業務分担ノ都合等ヲ稽ヘ佐世保連絡委員會
ト別個ニ連絡委員會ヲ設置シテ先方トノ連絡折衝ニ當ル
ヲ最適ト認メラレタルヲ以テ外務省派遣ノ官吏九州地方總監
府、佐世保連絡委員會、西部軍司令部等トモ協議シ事實
ト長崎連絡委員會ヲ設置シテ小官委員長ト爲リ關係
官公署等ヨリ適當ナル委員ヲ選任シ九月十七日聯合軍先

0034

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0009

0033

遣隊ト折衝ヲ開始シテ以來今日ニ至ル迄円滑且活発ナル
運營ヲ圖リ來リタル次第ニ有之候 然レ未ダ中央ヨリ長
崎連絡委員會ノ正式設置ノ通知ニ持セズ今後ニ於ケル事務
ノ進捗上困難ヲ感ジ各候ニ付茲ニ從前ノ徑過ノ概略ヲ報
告スル共ニ速ニ長崎連絡委員會ヲ正式設置セラル、豫特別
御取計相煩度此段及上申候也

記

一長崎地区ニ對スル聯合軍ノ進駐ニ関スル終戰直後ヨリ其事
アルヲ察知セラレタルヲ以テ長崎縣廳ト直ニ之ヲ對策ニ付連
日ニ亘リ協議ヲ重ク受入準備等ニ努力中ナリトコロ九月
十三日中央ヨリ九州地方總監府ヲ通シ進駐ノ日時及聯合軍ノ
要求事項等連絡アリタルニ由リ佐世保鎮守府、九州地方統
監府軍等トモ協議シツツ鏡意準備ヲ爲シ聯合軍ノ進駐

ニ遺憾ナキヲ期スルコトニ付

一而シテ佐世保地区ニ對スル進駐ニ関スル九月十三日正式設置ヲ見
タル佐世保連絡委員會ニ於テ準備等ニ連絡折衝ニ當ルコトト
爲リタルカ曩ニ述ベタルガ如ク長崎地区ト佐世保地区トニ進駐ス
ル先方部隊ノ系統ガ異レルト長崎地区ニ進駐予定ノ兵員
數ガ二万二千名ノ多數ニシルコト並ニ當方ノ実情トシテ佐世
保方面ハ佐世保鎮守府ヲ主体トシ長崎市方面ハ縣廳
ヲ主体トシテ夫々別個ニ連絡折衝ニ當ルヲ便宜ト認メラレタ
ルコト、諸侯ニ願ヒ長崎市方面ニ進駐スル聯合軍ト、連絡折
衝ハ佐世保連絡委員會ト別個ニ長崎市ニ連絡委員會ヲ
設置シテ之ニ當ルヲ適當ト認メ居、タルモ中央ヨリハ其ノ方針
ニ付特別ノ指圖ナク小官トシテ之カ處置ニ付困惑ヲ感シ居
タルトコロ九月十六日ニ至リ外務省間瀬總領事九州地方總監

0035

RA'-0009

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0034

府安田官房主幹、西部軍司令部江湖少將等長崎市到着
着ルヲ以テ豫テ研究準備中、長崎地区ニ於テ連絡及受入
事務組織等ヲ中心トシ、同日午后長崎縣廳ニ於テ関係官公
署等代表者ヲ集メ協議ヲ爲シ便宜別紙(一)、如キ構成
ニ依リ長崎連絡委員會ヲ設置シ到着期日切迫スト認メラ
レタル聯合軍先遣隊ト折衝ニ當ルト共ニ先方要求事項
ニ付準備打合ヲ遂ゲタリ
然ルトコロ右委員會成立ノ翌日即チ九月十七日長崎港聯
合軍先遣隊到着ニシテ先方要求ニ依リ小官茲ニ長
崎要塞司令官、西部軍江湖少將等先遣隊長ウエニ
シケリ大佐、ワイルド中佐等ト面會ニタルトコロ其、場ニ於
テ佐世保地区ト別個ニ要求ナリトシテ別紙(三)、具體的
要求ヲ受テ之ヲ中心ニ質疑應答ヲ爲シタリ、而シテ

ウエニシケリ大佐、佐世保地区ニ對スル進駐ニ関シ佐世保連絡
委員會ト折衝ヲ開始スル爲メ翌九月十八日佐世保地区ニ向ヒ
長崎地区進駐ニ関シテワイルド中佐主任トシテ担当スルコト
爲リ其、後同中佐外教名、士官ト教回ニ亘リ小官及當
方関係委員面會シ別紙(三)及(四)、要求事項ヲ中心ニ種々
打合テ爲スト共ニ當方トシテハ要求事項、充足ニ付萬全ノ努
力ヲ爲ストトシタリ
一原子爆彈ニ因リ深刻ナル被害ヲ蒙ル長崎市及其、附近ニ
對シ聯合軍ニ方ニ千名ノ進駐ヲ見ルハ元來無理ナリト認メ
居ルトコロ果シテ先方要求事項、充足ニ付ラハ當方トシテ担
當ノ困難ヲ感シタルモ先方ニ對シテハ當地ノ實情ヲ充分説
明スト共ニ進駐場所ノ決定ニ付テハ市民生活、便宜ヲ出来
得、限リ考慮シツ、先方ト折衝ニ當ルコトトシ一方約束事

0036

RA'-0009

0035

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

項ニ付テハ誠意ヲ以テ作業ノ完遂ヲ圖ルコトニシタル結果先遣
隊トシテ連絡折衝ハ至極円滑ニ進捗シタル次第ナリ
一其ノ間長崎地区ニ於テ先遣連絡委員会ノ正式設置方ニ付キ九州
地方総監府及佐世保鎮守府等ヲ通ジ中央ノ意向ヲ質シ
設置手續ノ促進ヲ圖ラレ度キ旨連絡方依頼シタルトコロ九月
二十一日頃九州地方総監府ヨリ内務省警保局外事課長ヨリ回
答ナリトシテ聯合軍進駐後設置ノ方針ニ付可然御處置
相成度キ旨ノ電話連絡アリ九月二十二日頃又佐世保鎮守府ヨ
リモ長崎地区ニ独立シテ委員会ヲ設置セラル中央ノ方針ナ
ル旨ノ情報アリ現地トシテ正式設置ノ手續ノ如何ヲ問ハス
先遣隊トシテ交渉上差當キ委員名簿提出ノ必要ニ迫ラサル
ヲ以テ別紙(五)ノ如キ英文名簿ヲ提出シ交渉ノ円滑ヲ圖ル
コトトセリ

一而シテ長崎港ニ對スル聯合軍ノ進駐ハ中央ヨリ通知アリタル日時
ヨリ三日程早ク九月二十三日ヨリ開始セラルトト爲リ一層當
方引受作業ノ進捗ニ困難ヲ来シタルガ進駐ノ予定ノ如ク九月
二十三日ヨリ開始セラレ其ノ後ノ状況ハ既報ノ如ク概ネ平穩裡ニ
推移シタル次第ナリ(進駐開始後ノ状況等ニ関シテ隨時警
備本部ヨリ報告シタルモ重複ヲ厭ハズ便宜別紙(六)トシテ添付ス)
一長崎地区ニ進駐スル聯合軍ノ司令部ハ政務部ヲ初メ多數軍
問蒙ヨリ成ル相當ノスタッフヲ以テ當方ニ接シ各種ノ要
質問等ヲ連日三回リ爲シテアリ(別紙(七))之ニ對シテ
連絡委員会トシテ折衝回答シ多忙ヲ極メ今後ニ於テハ強
經理ノ處理ノ爾今發生スベキ各種問題ノ處理上ノ便宜
シバ速ニ長崎地区ニ独立シ連絡委員会ヲ正式設置スル
痛感セラル次第ナリ

0037

RA'-0009

0036

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

一尚大村地区ノ進駐軍トノ連絡折衝ハ佐世保連絡委員会ノ
 支部機構トシテ大村市ニ連絡委員会ヲ組織シテ之ニ當リ
 諫早地区ノ進駐軍ハ長崎市進駐軍ノ一部タル等ノ事情
 ニ照シ長崎連絡委員会ノ支部機構トシ諫早連絡委員
 會ヲ設置シ先方トノ連絡ニ當リトシ以テ現地ニ於ケル連絡
 折衝ノ円滑ナル運營ヲ圖ルコトナリ 而シテ諫早委員会
 ハ當初ヨリ諫早市長ヲ委員長トシ市役所ガ主体ト爲リテ
 作業ヲ爲シ縣官關係官ヲ派遣應援セラルコトトシタリ
 大村委員会ハ大村海軍航空廠長ヲ委員長トシ弁足初
 期ノ任務ヲ果シツアルガ軍復員等ヲ爲シ近ク大村市長ヲ
 委員長トシ委員会ノ組織ニ変更ヲ加フル必要アルモノト恩料
 ニ居リ

0038

昭和二〇 一一七〇〇 平 鹿屋 十月二十一日 一五〇〇 發
 本省 二十二日 一七一〇 着
 山路連絡事務局長

（聯合軍進駐ニ伴フ事務連絡ノ件）
 當地聯合軍進駐區域ハ十月四日以來宮崎都之城福山ノ線以南ノ大隅
 半島全部ニ擴大セラレタルカ近ク第五水陸兩部隊ニ屬スル第二師團
 現駐地進駐歩兵部隊ト交代シ宮崎方面ヘモ進駐スルコトナリ又本
 月末頃約一千鹿兒島市ニモ進駐スル等ナルカ兩縣下進駐部隊ニ屬ス
 ル連絡事務ハ各地ニ設置セラルヘキ連絡機關ノ性格如何ヲ問ハス當
 方ニテ適宜指導協力援助スルコトト發見何分ノ御同示請フ（了）

0039

昭和二〇 一一七〇〇 平 鹿屋 十月二十一日 一五〇〇 發
 本省 二十二日 一七一〇 着
 山路連絡事務局長

（聯合軍進駐ニ伴フ事務連絡ノ件）
 當地聯合軍進駐區域ハ十月四日以來宮崎都之城福山ノ線以南ノ大隅
 半島全部ニ擴大セラレタルカ近ク第五水陸兩部隊ニ屬スル第二師團
 現駐地進駐歩兵部隊ト交代シ宮崎方面ヘモ進駐スルコトナリ又本
 月末頃約一千鹿兒島市ニモ進駐スル等ナルカ兩縣下進駐部隊ニ屬ス
 ル連絡事務ハ各地ニ設置セラルヘキ連絡機關ノ性格如何ヲ問ハス當
 方ニテ適宜指導協力援助スルコトト發見何分ノ御同示請フ（了）

RA'-0009

0037

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

M 1.2.0.1-1-2

總一
皇

終戰
利聲

涉第四一號

昭和二十年十二月七日

新潟縣內政部長

終戰連絡中央事務局總裁官房秘書課長殿

涉外課事務分擔表送付ノ件

本縣內政部涉外課事務分擔表別紙ノ通相定メ候條參考及送付候也

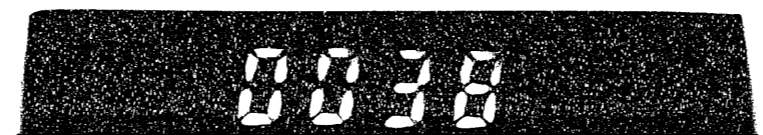
新

記帳簿



0040

RA'-0009



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

歩外課事務分擔表

課長 地方事務官 石黒 拓爾

總務係

分掌 事項	主任	副主任
事務係 總括	小田事務官	阿部事務官
進駐軍連絡ニ関スル事項	木島 屬	渡辺 屬
通訳翻訳ニ関スル事項	青柳事務官	柳川 屬
接待ニ関スル事項	渡辺 屬	補助久原美囀託
進駐費 經理ニ関スル事項	中村 屬	補助山崎囀託
人事ニ関スル事項	佐藤 屬	田中 屬
豫算編成並ニ執行ニ関スル事項	柳川 屬	補助渡辺囀託
情報連絡ニ関スル事項	柳川 屬	補助渡辺囀託
心算ニ属セザル事項		
法規例規ノ整理保存ニ関スル事項	森山 屬	田中 屬
縣物品取扱ニ関スル事項	田中 屬	森山 屬
通訳翻訳	郡司囀託	豊島囀託
	木村囀託	中山囀託
	小林囀託	

0041

RA'-0009

0039

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

物資係

分掌事項

物資係總括

商工務課関係内電気釘ニ関スル事項

食糧課農産課関係物資ニ関スル事項

商務課関係物資ニ関スル事項

林務課関係物資ニ関スル事項

係中他所管ニ属セザル事項

工務課関係物資ニ関スル事項

水産課関係物資ニ関スル事項

主任

副任

佐藤事務官

前田 属

松田 属

小泉 属

吉岡 属

伊藤 属

中野 属

佐藤書記

松田 属

吉岡 属

松田 属

主任

小島事務官

副任

施設勞務係總括

分掌事項

接收施設管ニ関スル事項

營繕工事ニ関スル事項

土木工事ニ関スル事項

特殊勞務供出ニ関スル事項(技能工)

一般勞務供出ニ関スル事項

資金ニ関スル事項

輸送ニ関スル事項

袖林 属

澤 技手

石田 技手

内藤 属

市原 属

遠藤書記

遠藤書記

神林 属

神林 属

高橋 属

高橋 属

市原 属

内藤 属

牧 属

兵衛 属

0042

昭和二十一年三月三十一日
本館
一月二十八日
三十一日
若林出張所長

宛 玉 總裁
(管祭無電經由)

(事務連絡ニ關スル件)

當地ノ連絡事務ハ先方改組ノ二十日前後ヨリ整理等ニテ當初受入以來本縣涉外局ノ代行ニ甘シ居リシ事務モ次第ニ制度ノ準備漸次期ヲ及ビシカ爲直接當方ニ要請シ來リ加ヨルニ事務繰リモ漸次稠密且迅速ヲ整ヘ來リ特ニ治安並ニ社會問題ニ關シテハ密接ノ情報ヲ受ケタシトノ要求アリ依ツテ小官トシテハ中央ヨリノ訓令情報等ニシテ直接御配布ナキ種類ノモノハ適宜京都大阪等ニ照會シ尋處シ居ルモ先方必スシモ満足シ居ラサルモノノ如ク「マ」司令部指令ハ素ヨリ中央ヨリノ報道情報訓令中モ直接配布ヲ受ケ一層協力セラレ度シトノ指示モ有之次第ナルヲ以テ石御諒察ノ上然ルヘ

外務省

0044

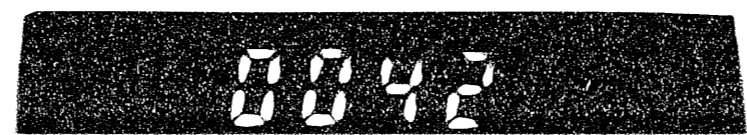
ワ御取計願成シ

配布先 文、電、總裁、次長、各部長、祕、總一、二

(了)

外務省

0045



2

利用シテ第一軍團、第九十八師團等ノ將校連ト交離ヲ行フ等
 公私ニ積極的活動ヲナシ居リ其ノ他ノ事務局ニ於テモ同一
 或ハ和歌山ノ如ク連絡委員長ガ米司令部ト同一宿舎、望海樓
 依リ或ハ一日二回位時間ヲ定メ用ノ有無ニ係ラズ米司令部ニ
 赴ク等種々連絡ニ努メ居レリ
 地方事務局ト府縣廳ノ協力振如何ニ依リ差違アルモ一般ニ府縣
 廳ノ係官ト地方官廳ノ協力振如何ニ依リ差違アルモ一般ニ府縣
 互ルモ官廳ト同一事務室ニ出張駐シメ居リ又管轄區域數縣ニ
 處ル縣廳當局ニハ終戰事務ニ關シ米側ヨリ注意ヲ受クルコ
 トモ一ニシテ米側要求ノ實行遲延シ然リ此ノ點府縣廳ノ反省
 ヲ求ムルニシテ地方事務局ノ比較的良好ト認メラルモハ
 愛知、長崎、大阪、和歌山、京都等ナリ
 終戰事務局長ノ存在ハ又ハ渉外課ニテハ或ハ委員會ヲ設ケ或ハ
 終戰事務各縣ノ行ヒ居ル處右ハ縣廳自體ガ實行機關ナル爲

0047

A'1.0.0.2-3-2

1

(1) 昭和二十年十二月六日ヨリ餘ニ瓦リ米第六軍管下ノ九州、鹿屋、
 鹿兒島、福岡、佐世保、長崎、中區、吳、廣島、四國、松山、
 高松、瀨西、大阪、神戸、京都、和歌山、名古屋、各地ニ於ケ
 終戰連絡機關概況及所見
 府縣廳所在地ニ在ル終戰連絡機關概況及所見
 略稱「中古屋事務所」カ米第二十五師團司令部内ニアル外總
 テ府縣廳内ニアリ縣廳所在地外ニ在ルモノハ鹿屋ガ舊海軍水
 交社内、佐世保カ市役所内、吳カ準備銀行内ニアリ
 之等事務所ノ米側、連絡状況ヲ觀ルニ名古屋ノ如ク米司令
 部内ニテ執務スルモノハ連絡容易ニシテ司令部、參謀長等ハ
 事毎ニ事務局長ヲ招致シ大小ノ問題ニ付協議シ時ニ重要事項
 ヲ内報シ居リ又双方ニ於テ公文發出ノ場合ハ事前ニ話合ノ上
 之ヲ發出スル等事關滑ニ運バレ居レリ大阪ニテハ米軍政
 係官ガ事務所長室ニ机ヲ有シ連絡ニ當リ居ル外局長ガ官舎ヲ



米第六軍管下ニ於ケル終戰連絡事務查察報告
 (昭和二十一年一月)
 大使館參事官 吉岡 範 武

0046

RA'-0009

0043

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

4

(四)
 事務局長ノ職
 京師ノ大官
 ニテ長官以下
 レモ從テ余族
 ラシクシテ然ル
 憲法ノ精神ニ
 人ノ活動シテ
 評者ノ直ニ行
 矣、福又ニ在
 スル、阿ル、可
 申

0049

3

實行容易ナル
 行ハ終戦事務
 ナハ終戦事務
 係官ヲ折出ナ
 係官ヲ折出ナ
 ャンムルコト
 資料ヲ送リテ
 第六軍管下地
 吳ニシテ縣廳
 見ル可キモノ
 アリ及兵庫ヲ
 舉ゲ得ベシ
 陣頭指揮ニ
 立テ活躍

0048

RA'-0009

0044

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

6

第二案ハ局長ヲ終戦事務ニ關スル限リ實行權ヲ有ストノ案ナ
 ルガ右ハ内政事務ニ關スルノ限リ實行權ヲ有ストノ案ナ
 間ニ機微ナル關係ヲ生シ事務上却テ錯雜ヲ來タス知事トノ
 記ノ如ク管轄範圍數縣ナル場合ハ實行簡單ナラザル可シ
 第三案ハ局長ニ實行權ヲ與フル案ニシテ即チ局長ニ於テ
 米側ノ要求ヲ正當ト認ムル場合之ヲ即チ實行ヲ知事等ニ於テ
 シ得ル案ニシテ局長ノ要求ニ依リ知事ハ之ヲ實行スル義務ヲ
 生スルモノニシテ局長ノ要求ニ依リ知事ハ之ヲ實行スル義務ヲ
 機微ナル關係モ生ゼス圖滑迅速ニ事務ヲ處理シ得ク又兩者ノ
 ハ所在米軍管下ノ各府縣知事ニ及ブハ勿論各省ノ地方特別官
 廳一織道局之ヲ行使シ得ルモトス可キナリ
 二對シテモ之ヲ行使シ得ルモトス可キナリ

0051

5

(ハ)
 地方事務局長ノ一般ニ正確ナ時間ヲ限リ頗ル嚴格ナル處之ニ對
 米側ノ要求ハ日本側ノ關係上兩者ノ戰務時間ガ連絡機關ニシテ府縣廳ガ對
 應スル日本側ノ關係上兩者ノ戰務時間ガ連絡機關ニシテ府縣廳ガ對
 實行機關ノ要求ニ應ジ得ルニシテ近來米側ヨリ注意ヲ受クルコトナ
 ハ米側ノ要求ニ應ジ得ルニシテ近來米側ヨリ注意ヲ受クルコトナ
 ラザルハ前項ノ通りニ居ルニシテ米側ヨリ注意ヲ受クルコトナ
 實任ヲ取ラシムルガ如キ事度ニ臨ミ居ルニシテ米側ヨリ注意ヲ受クルコトナ
 部有ス可キハ終戦事務ニ關シテ局長ノ職務ニシテ米側ヨリ注意ヲ受クルコトナ
 ト有事ノ長ニ於テ取止メル程ナリ(但シ司令部ニ對シテハ米側ヨリ注意ヲ受クルコトナ
 ハ事務局長ニ於テ取止メル程ナリ(但シ司令部ニ對シテハ米側ヨリ注意ヲ受クルコトナ
 期間長權限及府縣廳ノ關係ニ付再檢討ヲ加フル要アル可ク務
 局長ノ決案ヲ兼任セシムル案ヲ考慮シ得ル最底ノ見ラザルル
 之ガ解決ヲ兼任セシムル案ヲ考慮シ得ル最底ノ見ラザルル
 ヲ米側ノ要求ヲ兼任セシムル案ヲ考慮シ得ル最底ノ見ラザルル
 テ現下深刻ナル内政問題ニ關シテ山積シ居ル點ヨリハ案ノ忙カザルル
 ヲ觀アレバ右案ハ實現困難ト謂フ可シ
 之ガ解決ヲ兼任セシムル案ヲ考慮シ得ル最底ノ見ラザルル

0050

RA'-0009

0045

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

8

ル點ヲ考慮シ松山ノ事務局長ヲ高松ニ移スコト機宜ノ措置ナル
 可シ
 鹿岸ハ米直進駐當初ハ航空基地トシテ重要ナリシガ現在ハ沖
 繩第五航空部隊ノ一部ト第二海兵師團所屬第二聯隊ノ司令部
 官舎一ノ一大隊中シ居ルニ過キサレハ事務局長ハ寧ろ官舎ニ
 移シ鹿岸及鹿兒島一引揚事務聯絡ノ爲ニ出張所ヲ設ケルコ
 ト然ル可シト認ム

0053

7

地方事務局配置問題
 最近米車ノ引揚或ハ移動、英濠軍ノ進駐等ニ伴ヒ又終戰事務
 ノ經驗ニ鑑ミ地方事務局ノ配置ヲ再檢討スルニ新ニ事務局設
 置ヲ要ス可キ場所ハ神戸及岡山ニシテ移轉ヲ適當ト認ムルモ
 ノハ鹿岸及松山兩事務局ナリ
 神戸ハ第三十三師團司令部所在地ナルノミナラス名古屋一
 方面ノ掃海完了ト共ニ神戸トナリ殊ニ本年二月廿三日頃同
 トナル可キヲ考慮シ同地ニ是非共事務局ヲ設置スル要アリト
 認ム
 岡山ハ現在第二十一獨立支隊司令部（兵力約四千五百）駐屯
 シ居ル處近ク松山ニ在ル第二十四師團司令部ガ岡山ニ移駐ス
 ルコトトナリ居ルニ鑑ミ同地ニ事務局ヲ置キ中國方面ノ終戰
 事務ヲ併セテ管轄一山陰地方ノ松江或ハ米子ニ出張所ヲ設ク
 ル要アル可シ一セシムルコトトスル要アル可シ
 松山ハ第二十四師團司令部ガ岡山ニ移ルモノトセハ事務局ノ
 重要性減スル次第ナルカ四國全体トシテハ猶相當部隊殘留シ
 或ハ他ノ新部隊移動シ來タルコトヲ豫想セララルヲ以テ四
 國ノ何レカノ地ニ事務局ヲ置ク要アリ此ノ點ニ於テ高松ハ軍
 政本部ノ所在地タルノミナラス四國ノ地方行政事務局存在ス

0052

RA'-0009

0046

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

10

可シ 勞務問題 本問題モ米側トク間ニ免由問題ヲ生ジ務チニテ勞務者ノ勤勞
 意欲ノ低下ノ勞務者ヲ供給シ得ズ知事ガ注意ヲ受ケルコト等
 爲要求通リノ勞務者ヲ供給シ得ズ知事ガ注意ヲ受ケルコト等
 事務ノ上京ヲ差止メタル例(廣島)アリ最近勤勞者ノ努力ト知
 務者ニ對シテ米側ニ於テ失業者ノ復員者等ヲ動員シ完全ナル業種別
 勞務組織ヲ作ル要アル可シ
 通譯使用人問題
 當テ米司令部所在ノ大建一ビルノ一マネジヤ一者(京都)相
 於テ米司令部所在ノ大建一ビルノ一マネジヤ一者(京都)相
 運動ヲナシ或ハ米側ニ於テ惡練ナルコトヲ示シ(京都)相
 又米側ノ通譯使用人ト日本側ノ通譯使用人トノ差違ヲ著シ
 キ差違モ兎角問題ヲ起コシ易シ上及二點ニ付テハ米側ニ於テ
 賃金値上ニ付中央ニ於テ一マニ總司令部ト話合ハ要アル可
 シムルコト等ニ付中央ニ於テ一マニ總司令部ト話合ハ要アル可
 設備シ之ガ養成ニ努ムルコト然ル可シ

0055

(本) 地方事務局、主要問題
 本問題ハ各地ニ於テ頗ル苦心シ居ル問題ニシテ本件ニ關スル
 中央ノ指示ガ各年十月月中旬漸ク地方ニ通告セラレタルニ過ギ
 ズ當初本經費支出ノ範圍或ハ取扱振明確トラザリシ爲種々
 疑問或ハ誤解生ジ進駐軍接待ノ費用迄本經費ニテ箱ヒ得ルモ
 シト誤解タル同モアリ殊ニ問題多キハ米軍ノ「プロキユア
 コトナリ」殊ニ部條交換セル場合、部條ハ前ノ部條ノ相當アル
 對シテ「ヤイン」ヲ拒ムコト「マ」總司令部ト話合ヒ是非共
 解シ居レリ本件ハ中央ニ於テ「マ」總司令部ト話合ヒ是非共
 解決ノ要アリ又「ホテ」ニ於テ「マ」總司令部ト話合ヒ是非共
 決ツカズ困リ居ルニ付中央ニ於テ「マ」總司令部ト話合ヒ是非共
 ル「帝國」ニホテ「ホテ」ニ於テ「マ」總司令部ト話合ヒ是非共
 準ヲ指示スル要アリ又進駐軍經費ノ送金遲延タル爲業者ヘ
 拂至急送金方取計フ要アリ尙府縣廳ニテハ進駐車、駐屯ニ
 付至急送金方取計フ要アリ尙府縣廳ニテハ進駐車、駐屯ニ
 ヒ要スル經費(事務費、人件費、接待費等)ノ支出ヲ明確ニラザ
 擔トス可キヤ府縣廳ニテ相フ可キヤ經費支出ノ明確ニラザ
 ル爲之ガ取扱ニ迷ヒ居レリ、右何等カノ指示ヲ與フル要アル

0054

RA'-0009

0047

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

免セシレタル特高警察員ノ行動ニ注意シ警察ガ特高警察ニ代
 ル可キ組織ヲ作り居ルニ非ズカテ疑ヒ置テ又學校ニ於テ
 軍事教練ヲ行ヒ居ルカテ警戒（高松）シ居レリ尚最近米價ニ於
 テ手紙ノ檢閲ヲ行ヒ居リ又和歌山ニテハ出人者ノ荷物ノ檢査迄
 米兵ハ日本領ノ慰安施設ヲ相當利用シ居ル處（最近遊廓ハノ立
 入禁止ヲ行ハリ）米軍中ニハ日本領ガ慰安設備ニ力ヲ入レ過ギ
 肝心ヲ勞務提供ヲ爾却セルニハ日本領ガ慰安設備ニ力ヲ入レ過ギ
 工事ヲ中止セシメタリ又慰安設備モサル專作ヲ高級ナル文化施
 設ヲ望ム者數カシメ最近京都、大阪、其ノ他各地ニ於テ漸次此ノ
 方面ノ施設ニ積極的ニ衆出シ米價モ之ヲ利用シ居レリ於テ漸次此ノ
 米兵ノ犯罪ハ引續キ跡ヲ斷タズ近來智能犯的犯罪増加シ來レル
 ハ注目ニ價ス

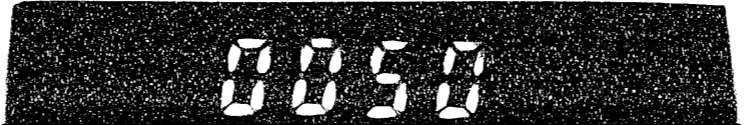
0059

(一) 米軍ノ最近前都ニ在ル第六軍ノ引揚、大阪ニ在ル第一軍團ノ京都ヘノ
 移駐、佐世保ヘノ移駐、松山ニ在ル第二十四師團ノ岡山移駐、兵
 師團ノ佐世保ヘノ移駐、松山ニ在ル第二十四師團ノ岡山移駐、兵
 名古屋ハベトスノ神戶移駐、英濠軍ノ吳進駐等占領軍ノ大福
 移駐ニ於ケル米側ノ應援ヲハ漸減ノ傾向ニアリ於ケルガ如ク極端ナ
 各駐ニ於ケル米側ノ應援ヲハ漸減ノ傾向ニアリ於ケルガ如ク極端ナ
 公正ナリ（由ツルモノナク漸次日本ノ事情モ諒解シ其ノ態度大體
 有シ要求ヲ正ナリ）殊ニ前記ノ如ク終戰事務局等ニ對シテハ無
 理ナ要求ヲ正ナリ）殊ニ前記ノ如ク終戰事務局等ニ對シテハ無
 要求ニ對シ日本側ノ實行強リ怠慢ナル場合、日本側ニ不正アリ
 タル場合ハ軍物資ノ不正處分或ハ隠匿ヲ取レル場合、佐世保鹿
 島（島）等ハ米側ノ方針ヲ無視セル指圖ヲ取レル場合（京都ノ石原
 判事等）相飲山ニ於ケル裁判々決ニ對スル干渉事件）等ニハ
 頗ル厳正ナル態度ヲ以テ臨ミツツ最近米側ニ於テ地方行政
 ニ干渉ノ完キモノハ少カズ、日本側ノ遣リ方ニ對スル不滿ノ表
 現ト見ル可キモノハ少カズ、最近一時期、アイ、シー、ノ活
 動、立派な者ノ思想傾向、戰爭中ノ言動ヲ諒ヘ又復員軍人ヤ罷
 免セシレタル特高警察員ノ行動ニ注意シ警察ガ特高警察ニ代
 ル可キ組織ヲ作り居ルニ非ズカテ疑ヒ置テ又學校ニ於テ
 軍事教練ヲ行ヒ居ルカテ警戒（高松）シ居レリ尚最近米價ニ於
 テ手紙ノ檢閲ヲ行ヒ居リ又和歌山ニテハ出人者ノ荷物ノ檢査迄
 米兵ハ日本領ノ慰安施設ヲ相當利用シ居ル處（最近遊廓ハノ立
 入禁止ヲ行ハリ）米軍中ニハ日本領ガ慰安設備ニ力ヲ入レ過ギ
 肝心ヲ勞務提供ヲ爾却セルニハ日本領ガ慰安設備ニ力ヲ入レ過ギ
 工事ヲ中止セシメタリ又慰安設備モサル專作ヲ高級ナル文化施
 設ヲ望ム者數カシメ最近京都、大阪、其ノ他各地ニ於テ漸次此ノ
 方面ノ施設ニ積極的ニ衆出シ米價モ之ヲ利用シ居レリ於テ漸次此ノ
 米兵ノ犯罪ハ引續キ跡ヲ斷タズ近來智能犯的犯罪増加シ來レル
 ハ注目ニ價ス

0058

(三) 結 論
 米 第 六 軍 管 下 ノ 概 況 及 所 見 上 ノ 通 務 關 係 各 地 ノ 事 務 或 ハ 觀
 ル ニ 設 備 ト カ 掃 掃 ノ 世 話 ニ 至 ル 迄 面 倒 リ 見 ザ ル 可 カ ラズ 事 務 使
 所 ノ 設 備 ト カ 掃 掃 ノ 世 話 ニ 至 ル 迄 面 倒 リ 見 ザ ル 可 カ ラズ 事 務 使
 局 中 ノ 實 績 ナ ル ガ 元 來 歐 米 人 生 活 及 活 動 ノ 本 據 想 全 米 設 備
 モ ア ル 次 第 本 人 ノ 想 像 以 上 ノ 關 心 ヲ 有 ス ル モ 此 點 米 設 備
 ス ル コ ト 日 本 人 ノ 想 像 以 上 ノ 關 心 ヲ 有 ス ル モ 此 點 米 設 備
 設 營 關 心 要 求 爲 眞 劍 ナ ル モ ノ ア リ 然 レ 日 本 人 ノ 想 像 以 上
 ニ 餘 リ 一 ピ ン 一 ト 米 側 一 米 側 一 見 詰 ラ ス ト 然 レ 日 本 人
 事 務 當 局 行 動 米 側 一 米 側 一 見 詰 ラ ス ト 然 レ 日 本 人
 ヲ 迅 速 ニ 充 分 認 識 ス ル 限 ア リ 然 レ 日 本 人
 對 ス ル 好 感 乃 至 信 用 増 ア シ 米 側 一 米 側 一 見 詰 ラ ス ト 然
 ザ ル 可 キ 勞 務 充 分 認 識 ス ル 限 ア リ 然 レ 日 本 人
 ニ 設 營 勞 務 充 分 認 識 ス ル 限 ア リ 然 レ 日 本 人
 方 面 於 テ 米 側 積 極 的 二 働 力 日 本 文 化 ノ 價 値 認 識 セ 進 通
 ム ル 共 同 米 側 積 極 的 二 働 力 日 本 文 化 ノ 價 値 認 識 セ 進 通
 シ 更 大 ナ ル 面 於 テ 兩 者 接 觸 提 携 ヲ 日 本 文 化 ノ 價 値 認 識 セ 進 通
 ン デ 現 在 日 本 直 接 面 最 大 問 題 日 本 文 化 ノ 價 値 認 識 セ 進 通
 米 側 ヲ シ テ 協 力 援 助 セ シ ム ル 様 導 施 策 日 本 文 化 ノ 價 値 認 識 セ 進 通
 可 キ モ ノ ト 思 料 ス ル 次 第 前 述 セ シ 地 方 事 務 局 長 ノ 權 限 問 題

地 方 事 務 局 ノ 配 置 問 題 等 此 ノ 線 沿 一 解 決 ス 可 キ モ ノ ト 信 ズ
 終 戦 事 務 局 ノ 改 善 中 央 地 方 間 之 連 絡 問 題 付 テ ハ 前 記 各 項 中 之 意
 見 乃 至 註 文 ア リ 改 善 研 究 認 識 シ 地 方 對 照 會 對 シ 絶 エ ズ 參 考 ト ナ ル 可
 テ ハ 各 地 實 情 ヲ 克 ク 研 究 認 識 シ 地 方 對 照 會 對 シ 絶 エ ズ 參 考 ト ナ ル 可
 キ 情 報 ヲ 供 給 ス ル ト 共 同 地 方 間 之 連 絡 問 題 付 テ ハ 前 記 各 項 中 之 意
 切 ニ 回 答 ヲ 與 フ ル ト 共 同 地 方 間 之 連 絡 問 題 付 テ ハ 前 記 各 項 中 之 意
 ノ 地 方 連 絡 事 務 局 之 遠 隔 密 切 二 問 題 付 テ ハ 前 記 各 項 中 之 意
 解 決 中 央 二 提 出 ス 可 キ 二 樣 式 中 央 地 方 間 之 連 絡 方 法 下 シ テ ハ 左 記 實
 定 期 報 告 ヲ 提 出 ス 可 キ 二 樣 式 中 央 地 方 間 之 連 絡 方 法 下 シ テ ハ 左 記 實
 施 方 案 於 テ 一 年 一 回 カ 二 回 地 方 事 務 局 長 會 議 ヲ 開 キ 中 央 ノ
 一 東 京 二 於 テ 一 年 一 回 カ 二 回 地 方 事 務 局 長 會 議 ヲ 開 キ 中 央 ノ
 二 地 方 間 之 連 絡 ヲ 密 接 ナ ラ シ ム ル 爲 地 域 別 二 局 長 或 ハ 係 官 ノ 會
 議 ヲ 開 キ 中 央 二 密 接 ナ ラ シ ム ル 爲 地 域 別 二 局 長 或 ハ 係 官 ノ 會
 三 此 ノ 會 議 必 要 認 爲 殊 ニ 地 方 事 務 局 長 會 議 二 付 特 二
 四 中 央 二 爲 縣 代 表 者 本 會 議 二 出 席 セ シ ム ル 科 ト
 五 政 府 決 定 重 要 事 項 八 運 滯 ナ ク 地 方 二 知 ラ シ ム ル 科 ト



大日本帝國政府

A/10002-3

終戦連絡事務局長
昭和三十二年二月十五日

内務省發書第三三號

終戦連絡中央事務局次長殿

終戦連絡事務ニ關スル件

當省ニ於ケル終戦事務ニ關スル連絡ハ富課ニ於テ統轄叙居候處往往貴局ヨリ直接當省主管局課ヘ連絡サルルモノ有之聯合國軍ヨリノ指令ニ關シテハ極メテ速處ヲ必要トスルニヨリ已ムヲ得ザル場合モ可有之被存候處右ハ例外的措置ト致度從ツテ直接關係局課ニ連絡サレタル場合ニ於テハ其ノ都度連絡相成度此段得貫意候

内務大臣官房文書課

0063

21.2.16
秘書課

17

ニ說明ヲ附シ之ヲ送付スルコト、米側ノ覺書中ニ日本側ヨリ照會セシ覺書ヲ「リファード」シアル場合ハ併セテ之ヲ送付スルコト
六 進駐軍關係ノ各種情報、國際情勢ノ「レジュメ」其ノ他職務上參考トナル可キ資料ヲ送付スルコト
七 通信設備ノ改善及直通電話ノ開設
八 安全迅速ナル書類ノ送達方法ヲ講ズルコト（最近米側ニ於テ郵便檢閲ヲナシ居ルニ付注意ヲ要ス）

0062

RA'-0009

0051

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

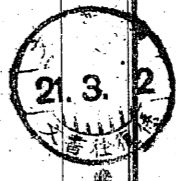
終戦連絡部一課

第四号

昭和廿一年二月廿六日

終戦連絡部事務所

連絡官 福島 茂吉



記帳簿

0064

會 告

終戦連絡中央事務局総裁吉田茂殿

軍政官ト滋賀縣知事令見ノ件

今般軍政官ハイランド中佐滋賀縣出張、砌リ二月十九日柴野知事ト令見セルガ令談ノ要點左記ノ通、何事亦冬迄報告ス

記

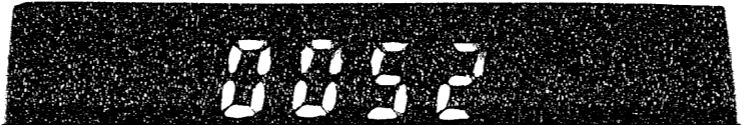
柴野知事ハ其ノ答リ下、最近ニ重要ナル事項トシテ左ノ諸點ヲ答ケ説明ヲ加ヘタリ

終戦連絡京都事務局

- (一) 農業 本邦既下最大ノ事件ハ食糧問題ニアリ、就中農業ヲ尤ナルモノトシ米ノ供出ハ刻下ノ緊急課題ナルヲ以テ自分ハ最近形内各地ヲ巡歴シ農民ノ本邦食糧問題理解ノ増進、警察力ノ増強及地方官憲ト警察ノ協力監察化ニ努メタリ
- (二) 崩合軍トノ協力 申入迄モナキ次第ト存スルモ自分ハ崩合軍トノ協調協力ヲ重要視シ各リ之ヲ最善ヲ盡サントス
- (三) 失業救済 失業問題ハ農村ニ於テハ此レテ同義ナシト思フモ都市ニ於テハ重大事件ナリ、失業ノ主要原因ハ復員遣送及金融緊急措置令ヲ廻ル施策等ニアリ、之ニ対シテ土木工事振興ハ大ニ緩和劑トシテ期待ス、緊急措置令ニ固執シ目下ノ知人心平靜ナルモ將來不穏ノ形勢ヲ招来スルカ如キ場合ニ備ハ警察力ノ擔充強化ヲ計畫ス

(京都二)

A/1.07.2-3



中ナリ（軍政官ヨリ失業救済ノ為ニ溝渠清掃七一安ホ
ナルヘキヲ速ブ）

三、聯合軍將士用住宅建設 本縣ニハ此ノ種住宅二千戸
建設ノ内牒アリ其ノ資材入手ハ頗ル困難ナルヘキニ結局
建設ストモハ永久的建築ヲ為スト寧ロ得策ト思フシ
右レリ 進テ正式通牒ニ接シタル際ニハ大津駐在軍政官
フレイガー中尉ト御相談スヘシ

（ホ）官公使ノ信用獲得ノ要 中央タルト地方タルト同ハス官公使
ノ一般民ニ依ル信頼ヲ獲ケ得ルト緊要ナリ 之カ為ニ官
公使カ約束ヲ嚴ニ履行スルトヲ第一トスヘキモノト思フシ
右レリ

（ハ）工場轉換 縣内多數工場ハ平和産業特ニ器具製造
ニ轉換セラレツアリ

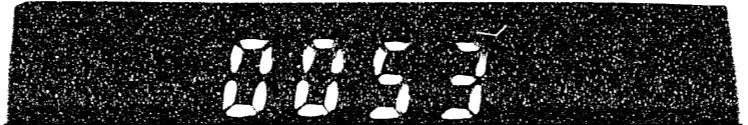
終戦連絡京都事務局

二、右ニ對シハイランド中佐ヨリ柴野知事ノ協力申出ヲ謝スルト共
ニ同中佐ヨリモ喜ンテ協力民生ノ復興ニ資シ度シト述ヘ尚聯合
軍ノ使用セサル舊日本軍建物及土地ヲ可及的ニ内務省ニ返
還スル様努力スル積リニテ之ニ就テハフレイガー軍政官ノ協力
ヲ求ムルトスヘシ 最近ニ同中佐ハ舊日本陸海軍所有ニ係リ
内務省ニ返還セラレタル物資ハ日本ノ一般人ノ使用ニ供スル為
迅速ニ配給セラルヘキモノナルニテ尋調セリ

三、尚不念見ハ終始極メテ友好暖々裡ニ行ハレフハイランド軍政官ハ
頗ル良好ナル印象ヲ得タル旨後刻本官ニ内話セリ

（京都二）

0065



RA'-0009

0054

終戦連絡中央事務局 啓

昭和二十一年三月六日

岡山縣内務部長

終戦連絡中央事務局 啓

進駐関係事務ノ機構改正ニ関スル件

從來進駐軍ノ受入事務ニ関シテハ廳内ニ進駐受入本部ヲ設置シ之ガ事務ヲ處理致居候處今回受入本部規程ヲ改正シ、岡山縣涉外事務局ヲ新設シ之等ノ事務ヲ掌理致スエトト相成候條此段及通知候也

進駐軍トノ連絡ニ関スル事項

一 進駐軍トノ連絡ニ関スル事項

二 要求物資調達ニ関スル事項

三 接遇ニ関スル事項

四 通譯ニ関スル事項

五 其ノ他涉外事務ニ関スル事項

記帳済 0067

電信寫

昭和二一 六二三 平 態本 二月二十七日一三四八發 連秘
二十七日一七三〇着

吉田 總裁？

八木 正？ 夫

(至急)

(連絡機關ノ内容報告)

當地連絡機關ノ内容ハ態本委員會(知事、内政部長、涉外局長、警察部長、市長)アルモ現在涉外局ノミニテ處理シ居レリ(了)

配布先 文、電、總部長、秘、總ノ二三、戦犯

0066

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

記帳簿

總四三六七
番四三六六
號四三六五
符平
昭和二十二年三月廿六日十七時四〇分
主 管 總

京都・大阪・名古屋事務局長

總裁

合第九九號

(關西ニ於ケル連絡事務ニ關スル件)

朝海他用ヲ以テ第八軍軍政部長「ピトブレ」代將ト會見ノ際同代將ハ自分ハ最近關西方面ニ進キ占領軍ト日本側トノ連絡狀況ヲ觀察セル處右狀況ハ概不満足ナリ但シ近畿ニ於ケル最高ノ責任連絡官ハ誰ナリヤ又連絡事務局ト縣廳トノ關係ハ如何ナリヤ例ハバ局長ハ連絡事務ニ關シ府縣知事ニ命令ヲ與フル立場ニ在リヤ等ノ諸點ヲ尋不居タリ此ノ點ハ貴地米軍ニ於テモ關心ヲ示シ居ル間願ナルニ付御參

電信寫

A/100 2-3

昭和二一 一二四四 平 宮崎 四月四日一五二〇發 人、絡秘
本省 五日〇八三〇着

吉田外務大臣

フダイ宮崎市長

(至急親展照校)

(占領軍涉外事務擔當官推薦方依頼ノ件)

記帳簿

占領軍ノ涉外事務ヲ擔當セシムル爲目下各縣ニ外務課ヲ設ケ居ル處其ノ課長選任ニ關シテハ地方ニ依リ非常ナル困難ヲ感シ居ル情況ナリ

若シ外務省關係ノ青年官吏中英語ニ相當堪能ニシテ地方轉出ヲ希望スルモノアラハ是非一名推薦ヲ請フ

又退職者ニシテ地方在住ノ希望者アラハ囑託トシテ課長事務ヲ擔當セシメ經濟的ニハ却テ優遇スル方法モアル趣ナリ

以上御含ミノ上何レニモ適當ナル人物ノ御推薦ヲ願上ク

尙本縣ハ目下ノ處食生活ハ左シテ困難ナラス御參考迄
配布先 絡總總、絡秘、絡總部長、次長、人、文、電、次官

電信寫

A/100 2-3

外務省

0069

0068

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0009

0055

終連總務部總務課

進第九三號

昭和二十一年四月四日

滋賀縣知事

終戰連絡中央事務局次長殿

滋賀縣進駐軍連絡事務局設置規程ニ関スル件

三月十九日附廳達第七號ヲ以テ標記ノ件 別紙ノ通相定メ候條 奉答ニ
資マシラレ度

終連
21.4.13
秘書課

21.4.8
記帳

0070

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0009

0056

廳達第七號

滋賀縣進駐軍連絡事務局設置規程左通
定ム

知事官房
内務部
經濟部
警察部

昭和三十一年三月二十九日

滋賀縣知事 柴野和喜夫

滋賀縣進駐軍連絡事務局設置規程

第一條 進駐軍トノ連絡ニ関スル事務ノ統一的且
急速ナル運営ヲ圖ル爲メ滋賀縣進駐軍連絡事
務局ヲ置ク

第二條 進駐軍連絡事務局ニ左ノ係ヲ置ク

無務係
物資係
設營係
連絡係

第三條 各係ノ分掌事項左ノ如シ

無務係

一 進駐軍受入ニ伴フ要員ノ人事ニ関スル事項

二 會計經理ニ関スル事項

三 文書ノ收受及發送ニ関スル事項

四 通譯及翻譯ニ関スル事項

五 他ノ係ニ屬サル事項

物資係

一 食糧及資材ニ関スル事項

二 其他所要物資ノ調達ニ関スル事項

0071

0072

設 營 係

- 一 宿舎ニ関スル事項
 - 二 其他設營ニ関スル事項
- 連絡係
- 一 進駐軍ト、連絡ニ関スル事項
 - 第二條 進駐軍連絡事務局ニ局長、次長及係長ヲ置キ局長ハ内務部長ヲ以テ之ニ充テ次長及係長ハ知事ニ命ス
 - 次長ハ局長ノ命ヲ承ケ局ニ属スル事務ヲ処理ス
 - 係長ハ次長ノ命ヲ承ケ其ノ係ノ事務ヲ処理ス
 - 第五條 進駐軍連絡事務局ニ参事ヲ置キ進駐軍トノ重要連絡事務ニ付調査審議ス
 - 参事ハ知事ニ命ス

0073

昭和廿一年六月

陸軍省
陸軍部
陸軍省
陸軍部
陸軍省
陸軍部



鹿兒島縣知事

終戦連絡中央事務局 局長殿

占領軍トの連絡事務機構設置報告

五月三十一日付を以て廃止された其の後の鹿兒島地区占領軍トの連絡事務を円滑にするため本縣に於ては従前の機能も踏襲し鹿兒島縣鹿兒島連絡事務局を設置し別紙陣容により連絡事務に遺憾のない態措置致しましたから内了承テ願ふべく右報告致し尚事務引継は六月十一日完了致しましたから併て報告します

記帳済

鹿屋連絡事務局機構

一名稱

鹿児島縣鹿屋連絡事務局

一内部機構

局長(肝属地方事務所長、兼務)

次長(専任)

職員各係

庶務五(事務官一嘱託二雇二)

渉外三(嘱託二雇員一)

資料二(事務官一雇員一)

輸送一(巡查部長)鹿屋警備署ヨリ巡道

警備一(警部) 令

勞務 鹿屋日備勤務署担当

海 軍

0075

土木部 鹿屋土木出張所担当(兼土木部ト連絡)

(海軍)

海 軍

0074

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0009

0059

総務部

准第二七八號

昭和二十一年六月二十九日

第一二號

滋賀縣

終戦連絡中央事務局次長殿

滋賀縣知事

21.7.8

0076

五月六日附應達第一二號を以て標記の件別紙の通り改正致しましたから
参考にして下さい

滋賀縣軍連絡事務局設置規程修正の件

RA'-0009

0060

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

電信寫

昭和三一 三七五六 平 鹿兒島 七月十三日一四〇〇發 絡政總
本 省 十四日一四〇〇着
吉田總裁 川畑事務所長

第五號

(軍政部と日本側との連絡に関する件)
新軍政機構に依り當地軍政司令官となつたワゴナリ大尉十二日
任十三日本官紹介を受け今後軍政部と日本側との連絡は概々本
府通して行ふ旨軍政部全員内政部後同席の上申渡された

配付先 文、電、次長、総務、絡政部長、絡秘書、絡總、連、
絡政、絡経財、賢、商、農、絡交陸、海、遞、絡設
庶、營、經、絡管、邦、内、

三

昭和二一 三八八七 平 鹿兒島 七月十七日一四〇〇發 絡總
本 省 十八日一四二〇着
吉田總裁 川畑出張所長

第六號

(軍政部と日本側との連絡に関する件)

本官發熊本宛第一號、
總裁宛往電第五號に關し
本十七日九州地方軍政長官リシク中佐當地出張の機會に本官を來
訪して現在の如き縣との關係を絶ち完全にシ、エル、オウ系
統のリエゾンオフィスを開設されたい、と述べた、就ては縣側の
態度如何に拘はらず至急實現致度に付貴局長の御來鹿を請ふ。
總裁九州へ轉電した。
配布先 文、電、次長、絡總部長、絡政部長、絡秘、總、連
政、

電信寫

Handwritten notes at the top of the page.

記帳済

0079

記帳済

0078

RA'-0009

0062

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

三便
 千連第一〇六號
 昭和二十二年七月十五日
 終戦連絡中央事務局總裁 芦田 均殿
 終戦連絡千連事務局局長心得 倉田 春
 終戦連絡中央事務局
 27.17
 終戦連絡千連事務局
 27.17
 0080

七月十四日附千連新聞に別紙の記事が掲載せられてゐたから何等御参考まで左記早見相添へ御報告する。

記

惟ふに終戦連絡事務局は占領軍進駐當初國內の混亂時、日本政府の接衝面に立つ代表機關として諸情報提供、各種の要求を接受する窓口の役割を果す目的を以て設置方を要請せられたものであるが、占領軍側に於て漸次日本國內の情勢並に諸機構に精通するに至つたので、占領軍側としては終戦を通すことなく直接各種の機構と接觸することにもむしろ便利を感じて來て居る様にも察知せられる。然しなから平和條約も近く約束せられてゐる今日獨立國家としての意

A'10.0 2-3

志を形成して行く上に於て日本政府並に國民としては、占領軍に對しては或る程度一定の國家交渉機構を持ち「スクリーン」された意見を以て之に對するべきではないかと惟はれる。此の意味に於て本記事にも觸れてゐるか如く各省及各機構が夫々單獨に占領軍に接觸し、徒らに自らの勢力を扶植することゝ専念の餘り拔擢の功名を競ふが如き態度に於て各個の交渉を行ひ、之が爲不統一の謗を受くるにあつては、獨り國政上の問題に止らず、恥を國外に曝すものかと存せられる。従て終戦の強化は單に占領軍の要求上より論せられるべきものではなくむしろ占領下に於ける日本政府自体の問題として取扱はるべきものと愚考する次第である。

以上

0081

RA'-0009

0063

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

千葉新聞

社 址 千葉市中央区本町二丁目
電話 23069
印刷 千葉市中央区本町二丁目

米から日獨に 漁船を貸與

【ソントノ十二日東京電】日獨漁業協定が、今日正式に発効した。これにより、日本は、獨逸に、漁船を貸與する権利を得た。これは、日獨漁業協定の重要な内容の一つである。日本は、獨逸に、漁船を貸與する権利を得た。これは、日獨漁業協定の重要な内容の一つである。

決定した對日基本政策

元帥・聲明書發表

【歩外局特別發表】

元帥は、今日、對日基本政策を決定した。これは、日本の利益を保護し、世界の平和を維持するための政策である。元帥は、この政策を、聲明書として発表した。この聲明書は、日本の利益を保護し、世界の平和を維持するための政策である。元帥は、この政策を、聲明書として発表した。

近代史上偉大な記録

世界中に日本の地歩を明示

元帥は、今日、對日基本政策を決定した。これは、日本の利益を保護し、世界の平和を維持するための政策である。元帥は、この政策を、聲明書として発表した。この聲明書は、日本の利益を保護し、世界の平和を維持するための政策である。元帥は、この政策を、聲明書として発表した。

秋鹵七萬貫増産計畫

鹵價は一躍一六〇〇掛に上昇

秋鹵の増産計畫が、今日発表された。これは、秋鹵の生産量を七萬貫に増産するための計畫である。秋鹵の生産量は、今日一躍一六〇〇掛に上昇した。これは、秋鹵の増産計畫の結果である。

上滿貫當り四百圓

鴨川で關東信越十府縣増産會議

鴨川で關東信越十府縣の増産會議が開かれた。この會議では、上滿貫當り四百圓の目標が設定された。これは、鴨川の水質改善と増産のための目標である。

養蠶に福音

縣の養蠶検査成績

縣の養蠶検査成績が、今日発表された。これは、養蠶の生産量を向上させるための検査成績である。養蠶の生産量は、今日一躍一六〇〇掛に上昇した。

米から日獨に 漁船を貸與

ソントノ十二日東京電

日獨漁業協定が、今日正式に発効した。これは、日本が獨逸に漁船を貸與する権利を得たことを示している。これは、日獨漁業協定の重要な内容の一つである。

米から日獨に 漁船を貸與

ソントノ十二日東京電

日獨漁業協定が、今日正式に発効した。これは、日本が獨逸に漁船を貸與する権利を得たことを示している。これは、日獨漁業協定の重要な内容の一つである。

米から日獨に 漁船を貸與

ソントノ十二日東京電

日獨漁業協定が、今日正式に発効した。これは、日本が獨逸に漁船を貸與する権利を得たことを示している。これは、日獨漁業協定の重要な内容の一つである。

米から日獨に 漁船を貸與

ソントノ十二日東京電

日獨漁業協定が、今日正式に発効した。これは、日本が獨逸に漁船を貸與する権利を得たことを示している。これは、日獨漁業協定の重要な内容の一つである。

米から日獨に 漁船を貸與

ソントノ十二日東京電

日獨漁業協定が、今日正式に発効した。これは、日本が獨逸に漁船を貸與する権利を得たことを示している。これは、日獨漁業協定の重要な内容の一つである。

追加豫算七百億に増額

修正

追加豫算七百億に増額修正。これは、追加豫算を増額するための修正である。追加豫算は、七百億に増額された。

手工業的の生産

和安本 東亞貿易が主となる

手工業的の生産。和安本 東亞貿易が主となる。これは、手工業的の生産を促進するための政策である。和安本 東亞貿易が主となる。

馬鈴薯を除去

概ね生育良

馬鈴薯を除去。概ね生育良。これは、馬鈴薯の生産を減少させるための政策である。馬鈴薯の生育は、概ね良好である。

全額を國庫負擔

資金と兩總用排水工事

全額を國庫負擔。資金と兩總用排水工事。これは、全額を國庫負擔するための政策である。資金と兩總用排水工事。

採める 船橋 製鹽問題

双方關係者の意見をきく

採める 船橋 製鹽問題。双方關係者の意見をきく。これは、採める 船橋 製鹽問題に関する政策である。双方關係者の意見をきく。

平野農相 視察 來縣

視察 來縣

平野農相 視察 來縣。これは、平野農相の視察に関する記事である。平野農相が來縣した。

終連 務不修

政治問題

終連 務不修。政治問題。これは、終連 務不修に関する政治問題である。終連 務不修。



見落ス勿レ... 職ナク收入ナキ... 方ハ今スグ来レ

見落ス勿レ... 職ナク收入ナキ... 方ハ今スグ来レ

見落ス勿レ... 職ナク收入ナキ... 方ハ今スグ来レ

見落ス勿レ... 職ナク收入ナキ... 方ハ今スグ来レ

見落ス勿レ... 職ナク收入ナキ... 方ハ今スグ来レ

五人家族で 炭六俵 市川早くも集荷に努力

五人家族で 炭六俵 市川早くも集荷に努力

五人家族で 炭六俵 市川早くも集荷に努力

五人家族で 炭六俵 市川早くも集荷に努力

炭坑の暴動と悪事の数々

炭坑の暴動と悪事の数々

炭坑の暴動と悪事の数々

炭坑の暴動と悪事の数々

一家四人赤痢 藤原半

一家四人赤痢 藤原半

一家四人赤痢 藤原半

一家四人赤痢 藤原半

千葉師女隊 排球部

千葉師女隊 排球部

千葉師女隊 排球部

千葉師女隊 排球部

水稲不足対策について

水稲不足対策について

水稲不足対策について

水稲不足対策について

堆肥の増産

堆肥の増産

堆肥の増産

堆肥の増産

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法

稲熱病予防法



No. 6

地方軍政部に対する要員派遣に関する件

四月七日

0084

四月七日 於第八軍軍政部
出席者 リンク中佐、鈴木横浜局長、木村第一部長
西山地方課長

会談中注目すべき点左の通り

当方 現在の地方事務局は従来通り存続するものと考えよう

リンク 依然存続する、但し八軍案の実現の爲に現在の職員より
リンク シヤツフルして各地に配置せしむるを要する Qualified Persons
当方 は英語を解し軍政部に advice を與え得る公正なる者を意味する
リンク か 八軍案にある Japanese Central Government には何を指す
リンク CIGO である
リンク 地方的に補充さるる LO officer 及 clerk の身分及予算關
係如何
リンク 各軍政部に派遣された Chief CIGO Officer が知事の推薦に基
きスクリーンして適任者を任命する但知事の監督を受けず縣の
予算にて賄われざることを必要である。之等の職員は凡
て CIGO であるべきである。又之等の者は Chief CIGO Officer
指揮監督を受けるものと考える。

A/1000' 2-3

0085

当方 本案実施には新に予算的措施を要し、大藏省は従来極め
て新規予算に關して嚴格である。

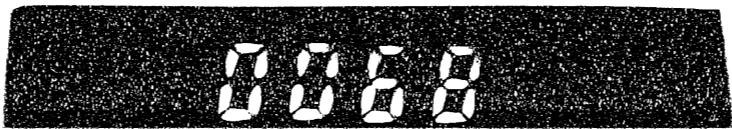
リンク CIGO は充分の予備を有して居る由聞いて居る

当方 簡素化された連調に於てはその然らざる点及人員の窮屈
な事情を説明

リンク CIGO より派遣すべきは七十二名であつて現在の地方職員
一七〇名を以て充分配置できるではないか

当方 は單なるリエンジニア以外に諸種の事務に従事して居る点及 HO
officer, clerk まで賄うことは不可能なる所以を指摘

リンク 軍政部と縣との中間にあつて各種のオードイネーション
リンク をしたり資料作成其他の中間的業務を行う必要ありや之等の
事務は直接縣に担任せしめ軍政部と縣との直接關係にて差支無
いではないか



当方 中央の出先機関多き所における調整事務の必要及び賠償及
び特殊の財産事務が賠償廳及び外務省の管理の下に行つてい
る事情を説明
リンク かくの如き仕事は八軍としてはインタレストを持たない
agree しないところである
当方 これらの仕事は法律をもつて規定せられてゐる現在の状況
場においては CICO として可否は別としてやらざるを得ない立
場にいる
リンク 八軍としては直接関係ない事務には関知するところでは
ないが何れにせよ本案実施のために CICO 職員を派遣を希望
するをお CICO 案の Qualified Persons の数には必ずしも同意出
来ない自分としては地方事務局の職員は大部分 Qualified Persons
であると考え更に實際上は各チームに一名の Qualified Person
がいればよくこの者が ~~他~~ Assistants を使用すればよい訳であつ
て全部が Qualified Persons である必要はない
当方 貴方としては七二名派遣の本案実施を早速又同時に行う意
向であるか
リンク 各チームに照会して希望の箇所を実施し希望せざる向に
は之を強制する意向は無い近く照会を發する予定であるが實際
には派遣を要する箇所は大して多くないことと思ふ
之を要するに自分は本件に關し決定の権限を有するものでな
いビールドール軍政部長が之を決定するものであるから貴方の意

0086

向を彼に報告して置く予算の点地方事務局が独立して行うべき
事務がありや否や等ビールドールの判断に委せる外ないが本案に
關する貴方の結論は何であるか
当方 若し新規予算の措置が取り得ないとすれば取敢ず現状にお
いて Furnish し得る約二十数名の人員を現在地方事務局の存在
する Regional Hq. Prefectural H. G. に派遣し漸次可能を範圍にお
いて他に及して行き度き考えである
なにお現下住宅問題・旅費等の過少等より人事行政が如何にも
困難な点は八軍当局において充分御考えを願いたいところであ
る

0087

0089

RA'-0009

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

終戦連絡 軍事事務局 宛
終戦連絡 軍事事務局 宛
終戦連絡 軍事事務局 宛

中連外第七六六號

昭和二十五年三月三十日

終戦連絡 中國事務局長

廣島縣知事 殿

廣島軍政部関係渉外事務の移譲に關する件
従来貴縣と廣島軍政部との間の文書の往復連絡其
他の渉外事務は大部分が事務局を通じて行はれて来
たところかねて廣島軍政部が他の縣單位軍政部同様
その担当縣たる貴廳との直接折衝を希望してゐることは
御承知の通りであるが先般当地の貴縣渉外局を設置
し貴縣渉外事務機構を拡充せられたのも此の希望
に對應せられたことが重要なる理由であつたと承する。一方

終戦連絡 中國事務局

外務省
22.7.4

0088

寫
幸便

A'1.0.0.2-3

寫

幸便

事務局としては最近賠償問題其他について事務の脚膝水を
来り自然本来の所管事項である中國地方各縣に亘る事
務の処理上中國軍政部の要望に副ひ難い状況にあるので今般
中國、廣島兩軍政部長及本官との間に協議を行つた結果
来る七月一日から廣島軍政部関係の貴縣所管事項
は原則として貴縣吳渉外局において直接御処理願ふ
こととなつたから右様御承知ありたくここに通報すま。
追つて廣島軍政部関係事項であつて去貴廳所管事項
以外のもの及び貴廳所管事務中中央からの指示により当
事務局経由を要する事項(例賠償指定除外申請等)については
従来通りに取扱ふから御承知ありたく右念の爲申添える。
本信送付先

終戦連絡 中央總裁

終戦連絡 中國事務局

0089

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0009

0070

NO. 6



28

連
110
82

CONFERENCE WITH 8TH ARMY REPRESENTATIVE

1. On 23 March a representative of Government Section conferred with Lt. Col. Link who represented the Chief of Military Government Section, Eighth Army, and in answer to the three questions presented in checknote No. 2 by the Chief of Staff of this Headquarters, stated that:

a. "It is the belief of this Headquarters that the Liaison and Coordination Office and the Central Liaison and Coordination Office have presently employed sufficient authorized personnel to more than adequately staff prefectural offices as requested. The problem, we believe, is merely one of some reorganizing and transfer of personnel.

"Fukuoka, Kinki and Tohoku region liaison offices combined have approximately sixty foreign office employees at present. The number in each of the remaining eight presently established offices is unknown. The total required under this plan, exclusive of the Yokohama Liaison and Coordination Office, is approximately 72 (an overall reduction of 105 foreign office officials of the first three grades.)

"To obtain suitable chief liaison officers and assistants, a reshuffling of presently assigned personnel may be necessary, together with a transfer of a few qualified English-speaking personnel from bureaus to which they have been assigned.

b. "The use of Foreign Office personnel by prefectural, regional, Corps and army military government units, as liaison, will contribute to more efficient operation for the following reasons:

(1) They understand the Occidental mind, plans and procedure and can convey these to other Japanese.

(2) They are not obligated to the governors and other prefectural officials.

(3)

0090

(3) They can supply military government commanders with an unbiased opinion regarding local political and other activities.

(4) The proposed reorganization should eliminate excessively large local (prefectural) liaison sections presently appointed, paid and controlled by the prefectural governor purportedly for the use of military government units.

c. "It is proposed that those matters of primary interest to Eighth Army military government be transmitted through liaison channels which parallel military government channels. In all other matters, this Headquarters has no interest in how communication takes place. No change was envisioned except in military government matters in which the Eighth Army is concerned.

"Paragraph 2b of Letter, AC 323.31, Pers Eighth Army, subject: "Field Offices of the Central Liaison Office," should be amended to read: "That the liaison chain of command and communication in matters of primary interest to Eighth Army military government activities should parallel that now existing for Eighth Army military government units."

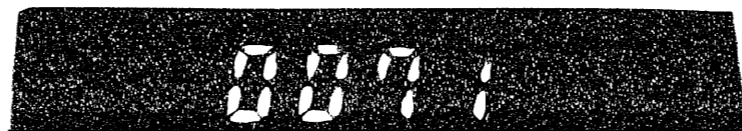
Checknote from Chief of Staff to Government Section, 27 February 1948.

1. The Chief, Military Government, 8th Army, has indicated that in his opinion the proposed reorganization will not involve any material increase in personnel, but rather constitutes a rational distribution of personnel in the interests of efficient operation.

2.

0091

RA'-0009



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

2. Before final action is taken on the basic recommendations, it is desired that representatives of GS confer with representatives of 8th Army to determine:

a. Whether any appreciable increase in personnel are involved.

b. Whether the proposed reorganization will contribute to more efficient operation.

c. Whether it is contemplated that the Central Liaison and Coordination Office be denied the privilege of direct communication with field units.

3. When the above information has been obtained, it is desired that your recommendations be resubmitted.

Checknote from Government Section to Chief of Staff, 24 March 1948

1. An informal expression of opinion from all CHQ, SCAP staff sections was invited by Government Section on this matter at a conference conducted for that purpose on 18 March 1948. A transcript of that conference is attached as Tab C. The plan proposed by 8th Army was favored by none in attendance and was opposed by the majority of those who expressed an opinion at the conference because of an apprehension that adoption of the proposal would eliminate direct communication between the CL&CO and its field offices.

2. It will be noted in Para. 1c of Tab A that as of 23 March 8th Army altered its original position with reference to eliminating direct communication between CL&CO in Tokyo and CL&CO field units and recommended that the liaison chain

of

0092

of command communication of the CL&CO "in matters of primary interest to Eighth Army Military Government activities should parallel that now existing for Eighth Army military government units."

3. Government Section recommends:

a. That proposal contained in basic communication be approved with para. 2b deleted and that the present CL&CO liaison chain of command communication remain unchanged except as indicated in sub-paragraph b below.

b. That Government Section informally notify the Central Liaison and Coordinating Office to coordinate with Hqs. Eighth Army in placing the proposed personnel reorganization into effect and in the future to supply the Yokohama Liaison and Coordination Office with a transcript or copy, whichever is appropriate, of verbal or written messages to its field offices on any Occupation or military government matter in which the Eighth Army has a primary interest and establish in its field offices a procedure whereby similar records of communications dispatched by the letter to the CL&CO in Tokyo be furnished to the respective military government teams at the local level concerned.

c. That the attached draft 1st indorsement (Tab B) be dispatched to Eighth Army.

4. Subsequently, Eighth Army Military Government Section, shifted its position as shown in para. 1c of Tab A, and orally concurred in these recommendations and in the draft first indorsement (Tab B).

Govt.

0093

Govt. Section's Memorandum for Record: 24 March 1948

1. The organization of the Occupation was originally designed to parallel the organizational structure of the Japanese Government rather than to impose a territorial or tactical form of direct military government. Now, after 2-1/2 years it is proposed to remodel the Japanese channels of communication to parallel ours instead of permitting each of the field offices of the CI&CO to continue to function as a separate branch of the Tokyo office. The suggestion would interpose a bottleneck, delay Japanese communications, and penalize the CI&CO for its exhibited efficiency. The letter was created by the government at the direction of SCAP and has served this Headquarters well. In the interests of expediency, particularly on matters in which Eighth Army's assistance is not required, various staff sections communicate instructions or requests directly to the CI&CO which, in turn, transmits these instructions or requests directly to the field office concerned and there is no need for additional coordination. The imposition of an additional and unnecessary link in the chain of communication would delay and possibly confuse prompt compliance with instructions from this Headquarters.

2. It is the opinion of Govt. Section that the weaknesses which are alleged to exist in the present Japanese liaison system are, when analyzed, actually organizational defects inherent in the type of military government structure adopted for use in Japan and that such defects cannot be remedied without:

a.

0094

a. elimination SCAP surveillance of Japanese compliance with headquarters' directives required by Staff Memorandum No. 66, 1948; or

b. creating a territorial form of military government with each military government team reporting directly to theater headquarters. The current Eighth Army proposal would not eliminate the inherent defects in the present structure.

0095

RA'-0009

0073

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

No. 5 治
及

地方軍政部に対する要員派遣に関する件
四月十二日

四月十二日 於第八軍軍政部
出席者 ビルズレー軍政部長 ワイツ大佐 マツケルドニー大佐

先ずビルズレー大佐より八軍案に関して説明を簡單に行つたの
に對し 本件に関しリンド大佐と当方との会談の結果につき報告を
受けたか、何も聞いていない
ビルズレー大佐 何も聞いていない
マツケルドニー大佐 リンド大佐と話をしたか先般の連調との話は三
点に歸する即ち、充分の人員が居ない、予算的措置の問題、
地方軍務局が行つてゐる職務で八軍と直接關係あるものは三十
%以下であつて他は中央の問題を至直接八軍軍政部に關係し
ないものである。
当方 第八軍に直接關係ないといつても地方軍務局の仕事は全体
が占領軍に關連して行われてゐるものである。
ビルズレー大佐 九州軍務局等の人員を照会したる後特別聴達等に
外務省員で英語を解する者が入つてゐると聞いてゐるがこれ等を
本案の実施の爲に引戻さないか本案は可能の範圍から漸次実施
して行けばよくこの實現の爲には三カ月ない至四カ月はかかる
かも知れない

平井書記長は
了りし件は八軍
相違は、其後、
外務省に
困難と思ふ

0096

本案実施のサヂエションとして例えは山口縣は
であつて大分縣よりも重要に考へてゐる現在九州は熊本
大分等軍務局があるに反し山口縣岡山縣にはない、九州にある
はその理由存することと思ふか山口岡山にも同様に置いてもら
いたい。

Sensitive
point

0097

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0009

0074

United States guidance to expedite the establishment of an economic independence for Japan through economic recovery, touches every Japanese citizen as an emanation of the traditional democratic spirit of the people of the United States who are devoted to the cause of justice and humanity. That the road has been paved for the rehabilitation of Japan upon foundations of peace, is due entirely to the fruits of the effective and successful accomplishment of the role played by the General Headquarters and the 8th Army authorities, we entertain not the slightest doubt.

As you are well aware, the Liaison and Coordination office is an agency which came into being as the result of a directive issued by the General Headquarters and exists today after certain adjustments had been made in February to the structure and duties of the former Liaison office which had performed liaison duties with the Allied Forces since the early occupation. The main duties of this office are of course in the liaison between the Occupation authorities and the Japanese agencies concerned. The role which is already being performed by this office does not confine itself merely to mechanical functions such as transmitting of directives and reports.

It

0100

It is felt and efforts are being made, so that in the execution of occupation policies it may perform the role of a neutral and fair counsellor with respect to the occupation authorities, and the role of an educator with respect to the Japanese side in aiding them to grasp the problems from an international view point.

We were so fortunate, on the previous occasion that we were gathered here in the C.L.O. days, as to be given considerable credit for our work of the two years preceding by General Eichelberger. This was to us most certainly an encouragement as well as reassurance. More recently, when we became acquainted with the extremely sympathetic understanding of the Military Government authorities concerning the nature and competence of our liaison and coordination machinery, it affects us with a deep emotion.

At a time when the dismemberment of the old order has reached a definite stage and the way for the construction of a peaceful Japan is about to be set, that the necessity for an independent responsibility and effort on the part of the Japanese people rests increasingly heavily, has become patently clear. We can appreciate too,

the

0101

the fact that in the future the Occupation authorities will be requested to bestow their considerations on various problems in the light of the process of transition. We would certainly consider it a great honor, if with respect to the various policies of the occupation forces, we are able in any way to help in the accomplishment of such duties. We are desirous henceforth, to exert all our efforts so as not to betray the trust and expectations which have been laid upon us, while we request you to give us your direction and guidance as heretofore.

0102

1. First I want to report on the general situation. Hokkaido is just one prefecture and there exists one Military Government. Moreover, all important Japanese Government agencies for the island are located in Sapporo. These circumstances make our work of liaison and coordination comparatively simple. I am very happy to say that, thanks to the good will and cooperation of the Hokkaido Military Government Headquarters, our work is being carried on smoothly.

2. The problem over which we are most concerned at present is that of the decrease of coal production in Hokkaido. Production began to decrease since the beginning of March, and in the first 10 days of April it fell to only 68% of the goal and in the second 10 days it remained at 78%. The main causes are the labor disputes and the decrease of labor efficiency. On the other hand, the Hokkaido Coal Office which was established as of April 1 has not been functioning fully because the Director was appointed only very recently the appointments of his chief assistants have not taken place owing to the delay in the screening by the General Government and other reasons.

0103

reasons. The situation is slowly improving. However, it is necessary to start a vigorous drive for increased production in order to make up the losses already sustained. The Hokkaido Military Government is doing its best to improve the situation but experiencing great difficulties because of the inactivities on the parts of the responsible Japanese agencies.

3. The next problem is that of food delivery. As you are well aware, Hokkaido has an excellent record for 1947 delivery. In order to achieve a similar or better result for 1948 crop, it is necessary to start the campaign based upon improved methods right now. In connection with the allocation of production and delivery quotas for 1948 crops, the farmers' organization directly approached the Military Government in an attempt to advance their selfish interests causing thereby considerable confusion. The movement among farmers to reject their allocated quotas, which I stated in my reply to your questionnaire, is the result of this confusion.

4. In general, the number of people who approach directly the Military Government or other Occupation authorities in order to utilize it to their own advantage seems

to

0104

to be increasing, and we feel that it is our responsibility to forestall such attempts of irresponsible elements. For an instance, recently through the request of the Military Government to make investigation we came across a case in which a black market operator tried manoeuvre the military Government into a position to help illegal transaction.

5. The labour situation in Hokkaido is characterized by a strong leftist tendency; for example, the Hokkaido division of the Government Railway Union is the Division on the extreme left of the whole union; also with regard to coal mining, almost 70% of all the miners belong to "Zentan", a leftist union affiliated with National Congress of Industrial Unions. Thus the labour question will remain one of the chief concerns of Hokkaido M-G & Our Office.

6. Hokkaido has comparatively few factories designated for reparations and so far no machines have been removed or shipped as such. So we are not so busy in this field.

There are only a few enemy properties and looted properties in Hokkaido, and the work concerning them is going on smoothly.

0105

第三号

General Report on Tohoku Region

Tohoku Liaison & Coordination Office

24 April 1943

AKINA OHYE
DIRECTOR

0106

I. General

1. With the creation of the Central Liaison and Coordination Office in Tokyo on 1 February 1942, this office assumed the name of the Tohoku Liaison and Coordination Office with its responsibility extending over the six Tohoku Prefectures, as originally, plus the Niigata Prefecture.

2. It is gratifying that the relations between the Occupation Forces and the various Japanese Governmental organs and the general public in this area are generally good and on friendly terms.

The valuable suggestions and recommendations being made by the Occupation Forces from time to time in connection with the various phases of local activities have been most highly appreciated by the Japanese.

3. This office has and will continue to maintain close liaison and coordination among the various Prefectural Governments in this area and the numerous other government organs, and with the Occupation Forces. For this purpose, besides arranging from time to time meetings between the various Japanese organs and the Occupation Forces, the Director of this office holds

regular

0107

RA'-0009

0079

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

regular weekly conference with Col. Stathar, the Commanding Officer of the Tohoku Regional Military Government, at which time reports are submitted on various developments during the previous week, concerning such subject matters as: Tax Collection, Land Reform Program, Food Distribution, Labor Movements, Reparations, etc..

4. In order to carry out more fully the mission of this office, preparation is now under way for the organization of the Tohoku Liaison and Coordination Committee in Sendai to include representatives of the Prefectural Governments and of various Branch Offices of the Central Government Ministries.

II. Reparation

1. The first shipment of reparation machineries from the Shiogama Port, consigned to the Republic of Philippines was made on 22 April 1948, from the former Army and Navy arsenals located respectively at Haranomachi and Tagajo in Miyagi Prefecture.

2. The second shipment, consigned, this time, for China, will be made sometime in May, completing the first allocation. In the meantime strict and generally satisfactory custodial and maintenance measures are being exercised over the other reparation items awaiting their removal.

0108

III. Labor

1. This office obtains reports from the various Prefectural Governments in this area ascertaining to labor movements and activities, which are submitted to the IX Corps Headquarters upon its request from time to time.

2. In order to mitigate the labor shortage at Misawa Air-Base, the existing wage scale has been substantially raised and put on the same basis with that of Hokkaido, as of 10 April 1948. Every effort is being made by the Aomori Prefectural Government authorities to improve, at the same time, the housing and general living conditions for the laborers, and also exercise stricter surveillance over them.

By these measures it is expected that the labor shortage as well as labor efficiency will be substantially improved.

IV. Construction

1. With the establishment of the Japanese Special Procurement Board, receiving and processing of procurement demands and related duties of this office have been transferred to the Sendai Branch of S.P.B. which was created on 1 January 1948. Therefore this office

at

0109

at present is charged with general liaison and coordination matters pertaining to construction projects.

2. Major construction in Tohoku Region have substantially been completed, except for the Misawa Air Base project, and the proposed extension of the Matsu-shama Air Base located at Yamoto and a few isolated projects.

With exception of the above-mentioned projects, the focus on the most part has been removed from construction, while more and more importance is being put on the repair and maintenance functions.

3. The number of new procurement demands relating to the Tohoku area has definitely decreased in the recent months.

V. Culture

The necessary preparations for housing the C.I. & E. Library in Sendai will be completed in May, so it is hoped that it will be opened to the Japanese people during the coming summer. Establishment of this reference library will no doubt promote the dissemination of American democratic ideals, cultural activities, etc. To the Japanese people, molding together the two peoples more firmly than ever before.

O110

Verval Report before Brigadier General Beaseley on the Works of the Tokai-Hokuriku Liaison and Coordination Office.

April 28, 1948.

Tokai-Hokuriku Liaison and Coordination Office, located in Nagoya, looks after five prefectures, Aichi Gifu, Mie, Ishikawa and Toyama.

The Office is primarily connected with the Tokai Hokuriku Military Government Region and only secondarily with prefectural Military Government Teams.

My job is mainly informative and advisory, except in reparation matters. Now that the removal, packing, transportation and loading of reparation machinery have begun, we are in daily contact with the Aichi Military Government Team in giving direction and supervising reparation job. This is because we have staffs best conversent with the job and the Aichi MG Team is responsible in the final stage of reparation.

In volume this job takes, I should say, perhaps 40 to 45% of our time.

The rest is the supply of information and advice to the MG Region. The supply of information is done both literally and orally. We supply written report on food ration distribution, on staple food collection, on fishery,

on

O111

on housing situation and on public welfare assistance. At the end of the month I submit to the MG Region a monthly report on the general political and economic conditions of the whole region, usually 20 to 25 double-spaced typewritten pages. I understand this is read and compared with reports from various MG Teams for checking purpose. In my last report I took up such subjects as prefectural budget, tax collection, local financial situation, the supply and control of staple food and perishables, industrial output, agricultural cooperatives, labor disputes, crime statistics, and the progress of reparation.

I make it a rule to call at the MG Region once a day to make verbal report on the happenings of the day. Often I am instructed to make further investigation on certain points in which the MG Region takes interest. Sometimes I am commissioned to report on a matter which troubles the region personnel. Then I go to prefectural governments or Local Finance Bureau, Commerce Industry Bureau or Public Prosecutors Office as the case may be. All these government offices and the Press are my sources of information.

Another job devolving upon me is the convocation at the behest of the MG Region of conferences of prefectural governors, mayors, prefectural liaison chiefs and chiefs of

regional

0112

regional offices of various Ministries. Whenever the Commanding Officer of the Region is present at these conferences I act as his interpreter.

Since I became the Director of Nagoya Bureau in mid-February a regionwide conference of the Press, & Radio, a town mayors conference at each prefecture of the region have been called to gather. At these meetings personnel of MG Region or Team gave speeches, telling the audience on what points Military Government placed stress and what were the purposes of various measures. Speeches were all appropriate and to the point. Only those gathered could not, most of them, understand English, with the result that while original speeches were being made some of the audience were distinctly bored. They woke up only when interpreter took the rostrum.

My impression after these meetings was that it was better for the MG people to give a translated manuscript read by prefectural officials in charge of the subject matter and take the rostrum only when questions have to be answered. This will save much time for answering questions and for free discussion.

In some cases interpreters poorly qualified almost

destroyed

0113

destroyed good speeches.

The biggest question for local government today may be the establishment of financial and administrative autonomy. Regarding the former it is up to the national government and the Diet to decide without procrastination upon what items of revenue should be transferred to prefectural fisc.

Regarding the latter it is the question of adjusting and lessening the number of local branches of various ministries, reportedly amounting to some 35,000 in number and divided into 101 categories. The argument put forward by prefectural governors is that too much economic power is concentrated in the central government. They control materials, both industrial and agricultural, and determine where they should be distributed.

While prefectural governors are responsible for the collection of staple food produces, they are not empowered to determine the allocation and distribution of incentive goods. They maintain that if they could have this power they shall be able to still increase production.

Tokai-Hokuriku region being well balanced in farming and non-farming population, food situation is on the

whole

0114

whole satisfactory. Ration distribution of this year compares well with last year. Where there was delay in staple food ration distribution last March ranging from 2 to 4 days in the region, there is almost none this year. Since the fish and vegetable control was inaugurated last December their supply at official prices noticeable increased in major cities. Only smaller towns and some villages suffer from short supply, too much stress having been put to large centers of consumer population. This being remedied by prefectural measures, with altered distribution of incentive goods, price change or new contract with supplying agencies.

My office is staffed with four grade II officials, three grade III clerks and five girl assistants. Of these twelve, four speak English fairly well and two others read and understand it.

In dealing with the Military Government, Region or Team, my motto is: "At your service any time anywhere, please make the very best use of us."

I hear that the Eighth Army Military Government has a plan to get some CLGO personnel detailed to Military Government units throughout Japan. As far as Tokai-

Hokuriku

0115

- 6 -

Hokuriku MG Region and Aichi Team are concerned, these are just as well furnished with me and my colleagues for their own use.

A. Miyazaki

0116

第五

Report on Administrative Affairs

of the

Osaka Liaison and Coordination Office

I General Remarks 28 April 1948

The Osaka Liaison and Coordination Office now deals with general matters of liaison, reparations and other related matters. These three categories of matters comprise respectively about one-third of the total volume of matters in charge of the Office.

II Matters of Liaison

General matters of liaison comprehend transmission of liaison from the Occupation Forces, transmission and disposal of representations and requests from Japanese Government offices and civilian circles to the Occupation Forces, liaison on matters relating to the military police court and the public safety police, transmission of representations and requests from ordinary foreign nationals, matters concerning looted property, matters of liaison concerning the repatriation of Koreans, Okinawans and natives of Oshima, various reports to be submitted to the Occupation Forces, etc. Matters of liaison with the Military Government comprise more than a half of the total volume, but

there

0117

RA'-0009

0004

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

but there are also a considerable amount of other affairs.

Close liaison is constantly maintained with the Military Government. The Military Government had directed that all written communications from the Japanese side should be processed through the Liaison and Coordination Office, and, on the other hand, the Military Government always sends its replies to these communications to the Liaison and Coordination Office. Therefore the Liaison between the Military Government and the Japanese side is uniformly channeled and matters of liaison of various Japanese Government offices are coordinated and adjusted.

With a view to furthering closer relations with the Military Government, there has been instituted since July last year a liaison conference of the head of the Military Government, director of the Liaison and Coordination Office, governor and mayor, and it has proved very effective.

The Japanese side is highly grateful to the Military Government for its guidance and assistance which enabled considerable achievements in the way of rice delivery, payment, reform of the educational system, prevention of epidemics, various social welfare facilities, public

works.

0118

works, many other matters.

Recent Issues

(a) Closure of Korean Schools

There are about 70,000 Korean residents in Osaka and they have established various schools. In accordance with the direction of the Ministry of Education dated January 4, the Osaka Prefectural Government, after consulting with the local Military Government and on the basis of the verbal directive, ordered the closure of Korean schools using the buildings of Japanese Schools. Nine such Korean schools have been closed, but ten other schools have refused to comply with the order. On April 23, when the prefectural authorities invited the responsible representatives of Koreans and were pleading with them, about 6,000 Koreans forced their way into the Prefectural Government. Thereupon the Japanese police communicated with the Military Government and ordered them to leave. They refused to obey and caused disturbance. As a result 180 were arrested, one Korean was injured and died latter and about 50 (including more than 30 Japanese police personnel) were wounded.

There

0119

There are indications that the disturbance was led by Communists including Japanese. On the same day a similar incident occurred in Kobe, and the future development of the situation is a matter of serious apprehension.

(b) Illegal Entry of Koreans

Since the end of last year, the Osaka Military Government has taken the position that the status of aliens who have illegally entered Japan should be determined by the decision of the Military Tribunal, that the Japanese authorities have no right to make such decision and that therefore they have no right to deport such aliens. There were more than 70 Koreans who have been arrested and detained on the charge of illegal entry. Three cases have recently been disposed of by the Military Tribunal, the decisions being deportation in one case, suspension of sentence in another, and not guilty in the third.

Most of the illegal entrants are leaders of the Communist Party and illegal traffickers. Since their long detention involved various problems, this office has, by request of the police, entered into consultation with the competent officer of the Military Government, adviser to
the

0120

the Legal Section of the 25th Division, Military Tribunal, and adviser to the Osaka Office of the U.S. Forces in Korea. It is hoped that the matter will shortly be settled.

(c) Issues concerning Employees of the Occupation Forces

There have recently been two issues concerning the Japanese employees of the Occupation Forces.

One concerns the wages of the domestic servants of the dependents of the Occupation personnel.

There are about 9,000 such servants in Osaka. Utmost efforts are being made for securing their services. However, their wages are remarkably lower in Osaka than in other prefectures (except Hyogo) in the Kinki District and they are moving out to other areas, especially Kyoto, which requires painstaking efforts to prevent. It was learned at the conference of competent officials of prefectures concerned that in Kyoto Prefecture, in accordance with the direction of the I. Corps, they are paid as their initial wages the highest wages of the classified jobs fixed by the central authorities and that their conditions in the way of raise, over-time, etc. are far better than

in

0121

- 6 -
in other areas. In Osaka their initial wages are the lowest wages. It is urgently desired that the provisions for wages directed by the Eighth Army be uniformly applied throughout the country.

(d) Another concern is the medical treatment of the Japanese employes of the Occupation Forces.

Since Japanese physicians have no right to decide whether illness is due to personal circumstances or official duties, they have to rely upon the certificates issued by the Labor Officers. It frequently happens that these certificates are to Japanese doctors; and a request has been made to the Occupation Authorities for the unification of the form of certificates. However, the Occupation Authorities find it difficult. In fact illness is, in almost all cases, considered due to official duties, which in turn greatly increases the expenditure. The Japanese side is confronting difficulties in securing sufficient funds for such expenditure.

The above is a few principal instances of the pending issues. All Japanese governmental and civilian circles, not to mention the Liaison and Coordination Office, are sincerely grateful to the Occupation Forces as a whole for their understanding and sympathetic guidance.

0122

- 7 -
III. Reparation

On April 5, the Chinese ship S.S. Yung Hsing, the first foreign vessel to take delivery of reparations at Osaka, entered the port and, completing the loading of 368 crates, or 1,433 tons, in two and a half days, departed on April 9, thanks to the guidance and encouragement of GHQ and the Osaka Military Government. The second Chinese ship is now in port. The removals specified in the first allocation notice have been completed. All of the 2,744 items have been transported to the loading place on the dock of the port of Osaka and are now ready for loading. Additional removals have already been packaged or crated.

The Reparations Council is frequently convened under the auspices of this Office to maintain close relations among the Government offices concerned and is making satisfactory progress. The Government offices concerned are also determined to devote their utmost to the completion of delivery of reparations. Appraisal is now in progress, but there are difficulties in inviting capable persons since the remuneration of civilian members of the Committee is unreasonably low.

0123

RA'-0009

0007

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

IV. Other Matters

This Office has established an Interpreters' Training Center for the purpose of supplementing the insufficiency of interpreters and improving their quality and facilitating affairs relating to the Occupation Forces. There have already been 200 who have finished instruction as higher grade interpreters and are now employed in various fields. At present 140 are receiving training.

Moreover, this Office is exerting its best to give Japanese people a better understanding of America. This Office often sends its officials to various circles to give information on the conditions in America or the American students' life; it assists Japanese organizations and schools in requesting lectures by personnel of the Occupation Forces.

The foregoing is a brief description of the affairs dealt with by the Osaka Liaison and Coordination Office. It is sincerely hoped that the Occupation Authorities will continue as heretofore to give guidance and assistance.

0124

CHUGOKU LIAISON AND COORDINATION OFFICE

The Chugoku Liaison and Coordination Office is one of those local Liaison and Coordination Offices under the Central Liaison and Coordination Office and it is located at Kobe which has the BCOF Headquarters and the Chugoku Military Government Region and its jurisdiction extends to all five prefectures of Chugoku Region, which is actually the main part of the BCOF occupation area.

The importance of the area may not be so great as compared with the Osaka-Kobe or Tokyo-Yokohama areas with respect to the matters of industry. The importance of the area, however, in respect to many local problems which are connected with the matters relevant to the transitional phase of democratization and economic rehabilitation of Japan is not less, if not more than that of any other area.

I consider it my great honor and privilege, however, to be able to make a report here that all such problems as referred above have been satisfactorily settled and are being smoothly handled, due to the efforts by all persons concerned and thanks to the kind guidance and benevolent assistance as extended by the local American Military Government.

0125

The only particular point I like to mention here that all liaison and cooperation matters between H.Q. SCOF and BCOF units on one side and local Japanese on the other have been always carried on through local American Military Governments.

As a consequence of this recently established proper channel, for example, many a problem in which BCOF units have primary interest such as release or temporary use of former Japanese Army and Navy installations located in BCOF area have been expedited and settled for the benefit of public welfare of local Japanese through the good offices of local American Military Governments. One more example, in regard to the adoption of so-called Daylight Saving Time System by Japanese Government, I understand, if I'm not mistaken, that BCOF authorities had not decided yet whether or not the above-mentioned System would be put in force for the BCOF units... Only because that the new measure is entirely one of Japanese matters, being decided to be adopted by Japanese Government. In case BCOF authorities finally decided to have nothing to do with the Daylight Saving Time System which is expected to put in force all over Japan on and after May 1st as scheduled, the local situation to come would be very much embarrassing

and

0126

and inconvenient not only for Japanese laborers working for the Occupation Forces in the area but also for the smooth running of local Japanese Governmental and commercial agencies in the area.

I expect, however, this matter would be certainly decided by BCOF authorities in favour of the new system through the good offices of Chugoku Military Government Region as requested information on this matter being submitted to the said Region from our office for the consultation with BCOF authorities.

Such being the case, we Japanese in BCOF area from Japanese viewpoint fully recognize the importance and significance of the functioning of the American Military Governments in the area. While the laws and orders in the area being kept safely and satisfactorily enough, all local people including citizens of Hiroshima who suffered most from the War by the fatal explosion of atomic bomb and they are now continuing their sincere efforts for reconstruction program being assisted technically by BCOF authorities have never ceased to entertain the very warm feeling of trust and respect to Allied Occupation authorities including.

As my final words, I would like to tender my heartfelt gratitude for my being able to attend this meeting

with

0127

with many high authorities of the Eighth Army and to be benefitted by many kind advices and instruction there.

0128

Report on Administrative Affairs
of the
Shikoku Liaison and Coordination Office.

April 28, 1948.

1. Control of Perishable Foodstuffs and the Collection of Taxes.

Since early this year the Kagawa Military Government has vigorously exercised control of perishable foodstuffs, and this Office, an official in charge to the Military Government, has cooperated in the matter.

The control has achieved very good results.

The Collection of taxes became a serious problem in the early part of February. This Office sent an official in charge to the Kagawa Military Government as an assistant to the Captain sent from GHQ, SCAP, to the Military Government in this connection.

2. Integrated Plan for land development in the Shikoku District

It has recently been decided that a Integrated Land Development Committee be set up in the Shikoku District, with the participation of Government Officials and private citizens concerned.

The function of the Committee is aimed at over-all development of land, involving not only the rehabilitation of natural calamities construction of a network of roads, and afforestation, but also

flood 0129

RA'-0009

0090

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

flood control, water-works, sewage, irrigation, railroads, harbors, etc.

3. Integrated Measure for Economic Reconstruction of the Shikoku District.

In order to effect speedy economic reconstruction and development in the Shikoku District, the Takamatsu Economic Stabilization Bureau has decided to set up a Committee on Integrated Measure for Economic Reconstruction of Shikoku with a view to planning and executing important measures through the united effort of governmental and private circles.

4. Problem of Electric Power.

(1) Present Electricity Situation.

The electricity situation since January this year has been much better than in the past few years and enable the supply of electricity according in general to the plan of the Economic Stabilization Board. Water increased still further since March, and it has become possible to supply electricity for special needs, too. Prospects of electricity supply are good for the time being; the Nagasawa Reservoir is nearly full.

(2)

0130

(2) Expansion Work for Sources of Electricity.

The elevation of the embankments of the Nagawawa Reservoir is now under consideration. The plan is being formulated in consideration of the procurement of material, additional rations to workers, etc.

5. (1) Subsidy for Afforestation.

A five-year afforestation plan has been put into practice by the Forestry Association of Kagawa Prefecture. However, against a subsidy of 12,000 yen per cho (2.45 acres). That is needed, the actual payment is as little as 3,300 Yen. Moreover, the subsidy is given in bonds and it requires a period of nearly two years to cash them. In order to revise such condition, representations have been submitted to the central authorities.

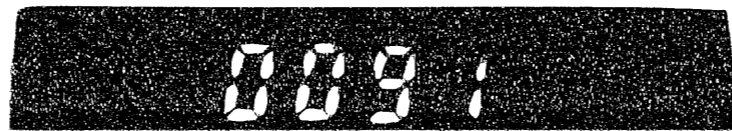
(2) Easier Forestry Finance

Financing for forestry involves many difficulties on account of its peculiarities, that is, (1) that its term is long;

(2)

0131

RA'-0009



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

(2) that a large sum of money is required for the development of hinterlands; (3) that the revolution of funds is slow. The Forestry Association of Kagawa Prefecture, therefore, has tendered representations to the following effect:

- a. Forestry finance should be set apart from the general accounts.
- b. Actual expenses should be made the standard for subsidy.
- c. The complicated formalities of the Central Agriculture and Forestry Bank should be simplified.

6. Desirability of Establishing the Marine Security Headquarters at Takamatsu.

In the Shikoku District there is no Marine Security Headquarters, which is the central organ for control. The district is divided into three parts, which are under the jurisdiction of the respective Headquarters of Hiroshima, Kobe and Moji; there are only lower organs in Shikoku, namely, the Security Divisions

at

0132

at Takamatsu and Kochi.

Shikoku is surrounded by the sea. In view of the necessity of maintaining land and sea contact in matters of marine security, it would be better if the marine security of Shikoku was unified by establishing the Shikoku Headquarters at Takamatsu.

7. Shikoku University.

There was a clash of interests among prefectures at first regarding the establishment of a Shikoku University. In accordance with the advice of the Occupation Forces, however, it has been decided that the four prefectures make a move in concert for its establishment. The location of its headquarters and the allocation of its departments to prefectures are yet to be decided, but preparations are making satisfactory progress. It is expected that the university will be opened next year.

0133

The jurisdiction of my office is the seven prefectures of Kyushu with a total population of 11,000,000 or one seventh of the whole population of Japan and an area of 35,000 square kilometres or about a tenth of the whole area of the country. As Kyushu is situated in the extreme south-western part of Japan and far away from the political center of the nation, the situation in Kyushu is not always adequately realized by the central government while there is a tendency that intentions and policies of the central government are not always quickly reflected in Kyushu. Therefore I would like to give a rough survey of Kyushu, explaining some of its main features and its requests toward the central government.

Economically Kyushu can be divided into two main areas; the North-Western Kyushu which is mostly mining and industrial; and the rest of Kyushu chiefly agricultural. Kyushu produces about 5% and Fukuoka prefecture alone 40% of the total coal output of Japan. Furthermore, Fukuoka prefecture which includes under its jurisdiction 5 North Kyushu industrial cities with a total population of 550,000 is responsible for 80% of the total industries of Kyushu. Industrial products of Kyushu are,

0134

among others, steel and iron (70% of Japan's total production), chemical fertilizers and drugs, glass, rubber goods etc. which are mostly based on coal and are all vitally needed for rehabilitation of Japan's economy.

Kyushu as a whole produces a sufficient amount of foods to feed its population. However, Fukuoka and Nagasaki prefectures are not self sufficient owing to the existence of industrial population in their areas. Sea fishing is also one of the important industries of Kyushu and has a great future.

Kyushu is also endowed with many excellent ports scattering nearly in all its prefectures. The existence of these ports, abundant coal and steel makes Kyushu Island an ideal site for export industries, especially of manufacturing goods to be ex-

ported

0135

ported to China, Korea and the Southern Asiatic Areas in view of its advantageous geographic relations with these countries.

As coal is the fundamental characteristic of economy of Kyushu, I should like to take this golden opportunity to present the case of Kyushu which is paying sacrifices for its coal production.

In Fukuoka and other coal producing prefectures, the companies and individuals not related with coal production are inevitably placed in a disadvantageous position, because they are almost in all economic and social matters such as food rationing, housing, transportation and financial facilities etc. In some extreme cases, it can even be said that ordinary people in such prefectures are "penalized" simply because they live in the coal producing prefectures. During the last summer, the staple food was 30 days behind the schedule, despite the fact that Fukuoka Prefecture is one of outstanding rice producing prefectures in Japan. And when winter came, the people of Kyushu suffered

from

0136

from an extreme shortage of electricity caused by unusual drought spell, and the situation was here-again further aggravated for ordinary people, a special priority in electricity allocation having been given to the coal mining industry. The people of Kyushu had good reasons for becoming a little resentful when the monthly minimum requirement for coal allocation for their thermal plants was always curtailed by 20 to 30% by the Central Government, thus causing a virtual paralysis of various industries and making an early delivery of rice even more difficult in most parts of Kyushu. Such decision of the Central Government could not possibly be understood by the people of Kyushu who knew that the total amount of coal requirement for electricity was not much more than 100,000 tons as against 1,500,000 tons, the total monthly output in Kyushu.

It is therefore only natural that the general public in Kyushu, especially in the coal mine areas, earnestly desire that their local governments' financial and other burdens as well as their own individual sacrifices due to coal production be fully taken into cognizance by the Central Government. For this reason

they.

0137

RA'-0009

0094

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

they express an earnest desire that the Central Government will give a positive assistance to the establishment of new export industries in Kyushu which may have many advantages in respects of coal, steel, harbors and geographical position. It is considered only fair that they should share not only the burdens but also the benefits of coal production.

From this standpoint, it is strongly requested that a favorable consideration be given and a speedy action taken by the Central Government concerning most important problems to be considered as prerequisites for development of Kyushu; such as, the full operation of the present thermal plants and sufficient coal allocation for this purpose and expansion of hydro-power plants, development of inter-prefectural main roads, resumption of construction works of the sub-marine tunnel project from Moji to Shimonoseki, improvements in service of communications with main land, repairing and expansion works of harbor facilities.

2. Local Autonomy.

0138

On year after the enforcement of the Local Autonomy Law, the local autonomy seems to be progressing along the right lines. However, there are still many obstacles in the way of its satisfactory operation. The biggest obstacle, is financial difficulties in finding new revenue sources especially for the new educational and police systems. In this connection, reform of the local taxation system now under deliberation in the National Diet is most opportune and of utmost importance.

3. Labor unions and Farmers Unions.

Lastly, a strict vigilance is yet to be maintained for a long time to come over the possible resurgence of ex-political bosses' influence. Some readjustments of local branches of the Central Government are considered necessary in order to allow local autonomous bodies to take consolidated and coordinated administrative measures. On the other hand, it is inappropriate to effect too sweeping a change of the present system disregarding the extent to which the officials of local autonomous bodies may have grasped the nationwide-outlook in the execution of their function.

Since

0139

RA'-0009

0095

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

Since the end of the war, labor union movement has made a rapid development in various parts of Kyushu, particularly contributing a great deal to the liberation of the workers and the democratization in general in the industrial districts of Northern Kyushu where ultra-nationalistic tendencies were very strong. But later in the course of its development, a small number of irresponsible leaders without due regard to the true spirit of union movement, have often succeeded in misleading their unions thus hampering production in the key industries such as coal and electricity. Recently, however, such tendency has been reversed, due to the proper guidance and enlightenment given by G.H.Q. and the local M.G. Teams, the new developments in international relations, the statements made by U.S. authorities on economic aid to Japan and also to failure of tactics of communist leaders. Consequently the number of those who are going over from unions affiliated with C.I.O. to unions under Japanese Federation of labor, is gradually increasing. Among the farmers, too, there

is *

0140

is a tendency to leave Nichi-No (Japan Farmers Union) which is influenced by Communist elements and join Zen No. (All Japan Farmers Union) or turn neutral.

It is believed in well informed circles that if no serious strikes should break out during a week following May Day, the labor front, particularly miners' unions, may remain peaceful for about six months to come. The tranquility and peace now maintained in the labor front in Kyushu owes much to the enlightenment given by the G.H.Q. both Central and local Occupation Forces, and if their surveillance and guidance should be relaxed, the workers might at any moment turn in the opposite direction.

0141

RA'-0009

0096

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第 二

福岡縣連絡委員會事務分擔

事務局長 青木重臣

委員事務分擔

總務部長 青木重臣

外務課長 美馬郁夫

翻譯外務省連絡官 南雲克太郎

庶務課長 美馬郁夫

情報通譯

情報課長 川瀬善一

警備課長 宮地直利

警備課長 原善吉

警備課長 宮地直利

警備課長 大野善一郎

警備課長 大津清

警備課長 菅本忠恕

警備課長 菅本忠恕

警備課長 菅本忠恕

警備課長 菅本忠恕

警備課長 菅本忠恕

警備課長 菅本忠恕

警備課長 菅本忠恕

警備課長 菅本忠恕

警備課長 菅本忠恕

警備課長 菅本忠恕

警備課長 菅本忠恕

0143

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0009

0098

事務

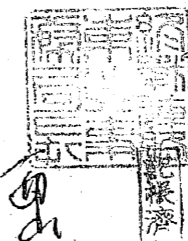
仙連普通第二九八號

昭和廿二年十一月六日

終戦連絡中央事務局總裁

芦田均殿

終戦連絡東北事務局大江晃



0144

第九軍團關東地方軍政部との連絡に関する件

當地第九軍團軍政部より當方に對し從來關東地方軍政部（在板橋關東M.G. リージョン）と日本側との連絡「ルート」確立せざる爲不便が多かつたが最近連絡ルートが（中央終連となりや横濱終連となりや不明）付きたる模様にて結構なるが關東地方をも管轄する軍團軍政部としては今後益々右ルートを強化して連絡を緊密にする様希望する旨申越すと共に現在の連絡方法を照會越したから折返し御回報お願いする。

なほ當事務局としては管轄外なるも軍團軍政部の管轄の關係上右地方關東信越地方は

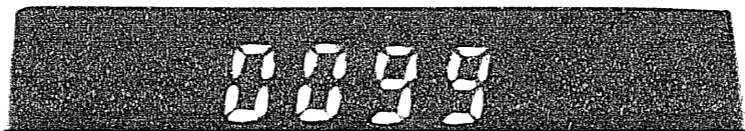
係事務につき直接當該縣に（賠償關係事務に付ては北海道終連共）連絡し居る處軍團軍政部としては米側指揮系統に照應して當事務局の指揮下に關東信越地畠を所管し關東地方軍政部との連絡に當るべき支局を關東地方軍政部所在地に設置すべしとの意見にてその旨第八軍に對し意見具申せる趣てあり又賠償關係事務に付ては最近事務の激化に伴い軍側では

少くとも當事務局に北海道及び關東信越地畠を夫々擔任する専任連絡員を置き現地との間を往復して軍團の指令を傳達し或は報告を蒐集せしむるが如き制度を確立方要望している。御參考迄

本信寫送附先 横濱・北海道各終連局長

0145

RA'-0009



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

寫

終戦連絡

灌連第五〇五號

昭和二十二年十一月十三日

終戦連絡横濱事務局

局長 鈴木 九 萬

終戦連絡東北事務局

大 江 局 長 殿

關東地方軍政部との連絡の件

十一月六日附芦田總裁宛仙連普第二九八號貴信に關し、
客月十四日當事務局河崎次長他用をもつて關東地方軍政部に出
頭の際、先方係官と彼我の連絡「ルート」の確立し居らざる點
に言及せると切懸けとし、同二十七日日本官正式に同軍政部長
「スプリングル」大佐を往訪し、今後同軍政部と日本側との連
絡は、管轄區域が同一なる點より「YLO」執務報告第四號参照、

終戦連絡横濱事務局

(日本標準規格B5)

外務省
2211.14
文書課
收

0146

當事務局が擔當することに詰合ひをつけ、別添の口上書を手交
しておいた。其後十一月七日に至りスプリングル大佐は次席
ジマイナー中佐を帯同賑々横濱に本官を來訪し今後の連絡方法
其他に付き懇談するところがあつた。
尙右の連絡方法として、常時連絡には取敢へず中央終連の
係官二名(前記口上書参照)を代行せしめ外、本官(又は
係官)が毎月定例的に出頭して、懸案の解決に當ると共に、時
宜に應じ隨時係官が出頭して連絡事務の圓滑化を期してゐる。
右御参考迄に御通報する。

本信寫送付先

中央終連芦田總裁
北海道終連武内局長

(日本標準規格B5)

終戦連絡横濱事務局

0147

RA'-0009

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

YOKOHAMA LIAISON OFFICE

~~INTERNAL~~ JAPANESE GOVERNMENT

27 October 1947

Col. L. A. Sprinckle,
Commanding Officer,
Kanto Military Government Region.

(1) The Central Liaison Office has its major regional offices at the headquarters of each regional government district and its Yokohama office, besides being accredited to the 8th Army Headquarters and Tokyo-Kanagawa Military Government is charged with liaison work with the Kanto Regional Government, and its jurisdiction was decided so as to conform to that of the Kanto Regional Headquarters. The Yokohama Liaison Office of the Japanese Government, therefore, has under its jurisdiction 10 prefectures of Kanto Shinetsu regions, including Tokyo-To and Kanagawa Prefecture.

(2) However, for geographical reason, the Yokohama Liaison Office has not been able in the past, to maintain liaison adequately with the Kanto Military Government Region, the fact that we regret and deplore very much. We had been anxious to remedy this situation when Capt. Arrowsmith of your Headquarters on Oct. 14th expressed to one of our representatives the desire to have suitable liaison officers maintain contact with your Headquarters.

Upon consultation with the Central Liaison Office we have now appointed the following members of C.L.O. to act as liaison officers on behalf of the Yokohama Liaison Office.

T. Yoshioka Tel. 57-5111 Ext.9
K. Matsumoto Tel. 57-5121 Ext.4

Any instructions or message which your Headquarters wish to give to this office will be transmitted promptly by contacting these two officers. The Yokohama Liaison Office also intends to send its representatives from time to time to make necessary contact with your Military Government.

0148

YOKOHAMA LIAISON OFFICE

~~INTERNAL~~ JAPANESE GOVERNMENT

- 2 -

It is the determination of this office to be at your service at all times and to fulfil its liaison duties with your Headquarters to the best of its ability.

YOKOHAMA LIAISON OFFICE

Tadakatsu Suzuki Chief

0149

RA'-0009

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan